

第67次印旛教育研究会国語研究部全体集会
「書く」分散会

研究主題

ものの見方、考え方を深め、表現の力を高める作文指導のあり方

～印旛の文集「ひざし」を活用して～



ひざしプロジェクト チーム中学校

1 研究主題

ものの見方、考え方を深め、表現の力を高める作文指導のあり方 ～印旛の文集「ひざし」を活用して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

子どもたちを取り巻く言語環境の多様化、複雑化は、避けては通れない課題となっており、国語科の授業においても様々な題材を扱うこととなっている。次期学習指導要領の目標(1)にもあるように、「社会生活に必要な国語について、その特質を理解」するためには、子どもたちが社会生活で触れるであろう題材を扱うことは重要であり、教師側の課題ともなっている。

また、インターネット、SNSなど、各種情報ツールの普及する社会の情勢も、「主体的・対話的で深い学び」を求めている。複雑化する社会の中で、子どもたちの触れる文章も多様化、複雑化しており、作文や手書きの文章だけでなく、様々な方法で表現する力を養うことが必要となっている。中学生が自己の生活を振り返り、自己の心を自らの手で探り、純真な思いで書く作文は、時として深く読む者の心を打ち、書く者の心を成長させる。画像を用いたメールやブログ、短文で構成されるSNSでは、なかなかできないことである。物の見方考え方を深め、表現を高める作文指導は、現代の中学生にとって重要な学習と考えられる。そこで、本主題を設定した。

(2) 文集「ひざし」の教材的価値について

「印旛の文集『ひざし』」は、印旛地区教育研究会国語研究部会が発行している地域子ども文集である。第1号は昭和22年に発行され、本年度は記念すべき70号が発行されることとなっている。子ども生活作文を文集に編集し、そこに収められている作品を読み合い、自由に討論し合うなど活用されている。書く力を養い、正しい生活認識と感性の発達を促し、よりよい人間関係や豊かな社会生活を実現することをねらいとし、長く印旛地区国語研究会の国語研究部員により受け継がれ、現在に至っている。

文集は、作文の部、詩の部、短歌・俳句の部に分けられ、表紙や文章の合間に入るカットも、生徒の作品で作られている。毎年、個人で作品を作り、夏の部会選へ向けて各学校で校内選が行われる。決められた数以内に選ばれた作品は、各部会での一次選考、郡全体での二次、三次選考を経て、国語研究部員の手で文集に結実する。作文の部でいえば、一つの学年で17、8点、3学年合計で50点余りに絞られた珠玉の作品は、人間関係や学校生活、家庭生活や社会生活を通した子どもたちの感性の揺れ動きが生き生きと描かれ、読む者の心を打つ。

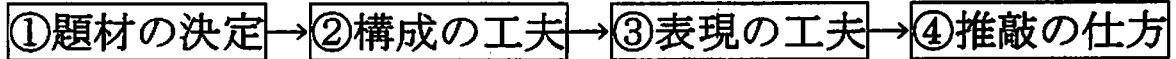
ひざしを授業で活用するメリットは

- ・ 選考委員が国語教師であるために、国語教育の視点で選考される。単なるコンクールの入選と違い、国語教師の願いが詰まった文集となっている。
- ・ 同年代の子どもが書いた文章なので行事、部活動、人間関係などのテーマで共通した体験が多いため、生徒の気持ちに入り込みやすい。

- ・ 色々なタイプの作文があり、生徒が主体的に作品を選び学習に役立てることができる。
- そのような観点から、「ひざし」をモデルとして活用し、作文指導を行うことは大変有効である。

3 研究の概要

作文指導の流れとして次のように考えられる。



今回の研究発表は提案1が流れの①について、提案2が流れの③について提案をする。

仮説は以下のとおりである。

- 仮説1 ひざしをモデルとし、自分の気持ちと重なる題材や表現と出会うことで、創作への意欲が高まるであろう。
- 仮説2 ①題材決定 ひざしのなかで印象に残った題材について検討することで自分の題材が明確になるだろう。
- ③表現の工夫 気になる表現を抜き出し分析をすることで表現の幅が広がっていくであろう。

4 実践報告

提案1 【題材の決定】

(1) 生徒の実態より

国語の学習について		好きな言語活動	
国語の学習が好き	14 人	読むが好き	19 人
国語の学習が好きではない	5 人	書くが好き	6 人
どちらともいえない	16 人	話すが好き	2 人
		聞くが好き	14 人

書くことが好き 11

理由…自分の思いを書き他人に伝えられる。・書いていて楽しい。・自分のことをしっかりと書き留められるから。・すらすらと書けるから。

書くことが嫌い 57

理由…何を書けばいいのかわからないから。・内容がなかったり、話の終わりがなかったりするから。・書いているうちにずれてきて、わけがわからなくなるから。・文章力がないから気持ちを文章に表せず、長文が書けない。書きたいことが書けなくていやになる。

作文を書くときに困ること (全員から調査)

- ・ どう書いたらより効果的に伝わるのか。・ 題名が決まらない。・ 構成 ・ 話をふくらませると、ずれてしまうからどこまで書いていいのかわからない。・ 題材。・ 書き出しが決まらない。・ 文字数。
- ・ 内容を濃く書けない。同じことを何回も書いてしまう。

3年C組は、男子20名、女子19名の計39名（内、特別支援学級から通級生徒1名）の学級である。男女の仲はよく、清掃や合唱などには全員が前向きに取り組むことができる。

上記アンケートの結果より、作文を「書くこと」に対しては、「好き」が11、「嫌い」が25と、半数以上の生徒が書くことに対しては積極的ではない。その理由は様々あるが、波線部にあるように「何を書いて良いかわからない（題材）」、「書いているうちにわからなくなる（構成）」、「書きたいことが書けない（表現）」「めんどくさい（意欲）」等いくつもの苦手意識が重なり、それが書くことへの抵抗につながっていることがアンケートから推察される。

（2）仮説について

仮説1 ひざしをモデルとし、自分の気持ちと重なる題材や表現と出会うことで、創作への意欲が高まるであろう。

「ひざし」の教材的価値を生かし、交流の場面を作ること、自分の考えを発信しようとする意欲が高まってくると考える。題材について検討しながら、自分が書きたい作品が明確になることで、意欲的に作文を書くことができるであろう。

仮説2 ひざしのなかで印象に残った題材について検討することで、自分の題材が明確になるだろう。

多くの生徒がアンケートの中で、「題材が決まらない。」「何を書くかわからない。」ことを理由に、作文への苦手意識が高いことがわかる。今回は教師が選抜した様々なジャンルの「ひざし」作品を読み、さらに自分が印象に残った作品について意見交換をすることで、自分の題材はどうするかの検討材料を増やす。「自分ならこう書く。」「これなら自分も書きたい。」という様な題材が明確になることで、生徒の表現しようという意欲が高まるであろう。

（3）指導計画

過程	学 習 活 動	形態
見出す 調べる	「ひざし」、「ひざしの子ら」から選抜した作品を読み、気に入った作品について交流、ジャンル分けをしながら題材を決定する。（1時間・ 本時 ）	個人 グループ
深める	題材をもとに、ワークシートを使って構成を考える。（1時間）	個人
まとめる	ワークシートを使い、実際に「ひざし」作品の作文に取り組む。（2時間） 書き上げた作品をお互いに読み合い、交流・推敲を行う（1時間）	個人 グループ

（4）実践について（本時）

1 「ひざし」、「ひざしの子ら」から選抜した作品を読む。

今回は、アンケートからも多くの「題材が決まらない」という意見があったため、題材決めにおいてはしっかりと考えさせる。そこで「ひざし」のバックナンバーを大いに活用する。近年のものだけでなくベスト版ともいえる「ひざしの子ら」からも作品を紹介し、様々な題材の作品に触れさせる。特に本校や本学区小学校の作品は積極的に紹介し、自分たちの郷土の歴史や地域の未来についても考えるきっかけとしたい。過去の作品を読み、「自分だったら何を書こうか」と自身の題材

を決定する。またその際に、「資質・能力を育成するための『主体的・対話的で深い学び』」リーフレットのステップ3にある授業改善の3つ手立てから、「手立て1『問いの工夫』」を実践した。

2 ワークシートに気に入った作品を記録する。

最終的に、自分の作品の題材を決めることを確認する。身近な友人や先輩が書いた生活の中での想いや体験、郷土の歴史などを読む中で、「これなら自分もある」というような「伝えたい題材」を見つけられると良い。その中で、今まであまりなかった郷土を題材に書く生徒が出てくることも期待する。ジャンル分けと同時にさせず、気に入った作品を選ぶことに集中させた。できればなぜその作品が良かったか、理由をいえるように付け加えた。

3気に入った作品の題材について、ジャンル分けを行う。

自分の心に残った「ひざし」作品が、どんな題材を扱っているか考えることで、自分の題材決定のてがかりとしていく。ジャンルはあらかじめ例を示し、分けやすくする。題材をジャンル分けしながら、出てきたジャンルの中で書きたいことや伝えたいことがないか考えさせる。ジャンル分けの作業につまる生徒もいたが、示してあった例や助言をすることでスムーズに進んだ。

4 ワークシートにまとめた作品について、小グループで交流を行う。

ワークシートで題材についてまとめたことを、さらに広げるための交流として小グループ発表の場を設定する。その際は、ワークシートに記録した作品のどこが良かったかを言葉で補足させた。自分と同じ題材でも、どこが良かったのか聞き分けるようにする。また、自分が選ばなかった題材はどうして良かったのか理解させる。ここについてはうまく伝えられない生徒もいたが、知り合いや地域の過去についての作品については、活発な意見交換ができていた。今回は作品がなぜ良かったについての理由説明よりも、お互いに心に残った作品の紹介を通して、作品に選ばれた題材について考えが広げることが狙いである。自分の意見と違う題材の魅力に気づかせながら、最終的に自分の題材がはっきりと決めることに重点を置いた。

5 交流を踏まえて、自分の伝えたい「題材」を決定する。

今までの取り組みをいかし、自分の納得した題材を決め、ワークシートに記述した。より効果的に伝えるため構想やメモを進んで作成している生徒もいた。反面、題材が決められない生徒もいたので、ワークシートを見ながら記録されたジャンルについて、マッピングなどの手立てを使い、題材を決めさせた。最終的に自分の思いが書けたという体験につなげるためにも、まずは納得した題材決定をさせることを意識させた。作文において、構成や表現も大切な要素である。しかし今回は何よりも自分が「伝えたい」題材は何かについて、しっかりと考え交流する中で決定することで、その後の取り組みを意欲的に行わせていくことを狙いとした。

(5) 成果と課題

授業後のアンケートより

1：題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

①書きたい題材は決まっていた。	20人
②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。	15人
③グループで、題材について話し合いをしたこと。	3人
④その他…自分の身近なこと・マッピング	3人

2：過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

①はい 25人 ②いいえ 11人

3：どの作品が良かったですか（2つ～3つまで）どこが良かったか、理由をお願いします。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ①牧場へ行こう（好きなこと）…1 | ②セメントの下になる畑（住んでいる町）…2 |
| ③移り変わる郷土（住んでいる町）…3 | ④牧場（住んでいる町）…2 |
| ⑤旅行と私（学校生活）…7 | ⑥私達の演奏（部活）…11 |
| ⑦限界を超えて（部活）…21 | ⑧ひいおばあちゃんの最期（人間関係）…11 |
| ⑨黒き訪問者（日常生活）…7 | |

理由

- ・部活に対する想いや書き方に魅力を感じた。題名も工夫されていた。
- ・気持ちや感情の表現がすごく伝わってきて臨場感があった。
- ・昔の三里塚がわかる感じがあったから。
- ②時代を感じたから。旅行に行けなかった悔しい気持ちがとても伝わってきた。
- ③空港が建つときの様子がわかったから。
- ⑦限界はなかなか超えられないが、あきらめなければ超えられるとわかった。
- ⑧ひいおばあちゃんがどれだけ大切にしてくれたか伝わってきた。
- ⑨めずらしい体験だとびっくりした。

3：作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。（いくつでも）

- ①自分でも似た経験が思い当たったから。 12
- ②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。 15
- ③知っている人（友達や先輩など）の作品で、自分も共感したから。 17
- ④自分では考えなかった題材があったから。 10
- ⑤その他（自由記述）
 - ・地域のことがわかった。 ・自分に今起きていることを書こうと思った。
 - ・書き方に関してはとても参考になったが、題材決定の参考にはならなかった。

3：過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に意見交流をしたことはどうでしたか。

①良かった…13 ②まあまあ良かった…18 ③あまり良くなかった…4 ④良くなかった…1

理由

- ・自分の題材決定になった。・自分だけでなく、他人の意見も聞いて題材決定に繋がったのが良かった。・みんなの意見を聞いて、自分の題材が決めやすくなった。・同じ作品でも見方が違ったから。・成田の移り変わりのとらえ方が、人それぞれあった。・あまり意見がでなかった。

4：良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは題材決定に役立ちましたか。

- ①とても役だった…6 ②まあまあ役だった…14
- ③あまり役立たなかった…12 ④全く役立たなかった…4

理由

・ジャンルを考えることによって、自分のジャンルが明確になって良かった。・自分の題材決定に不安があったが、ジャンルについて考えたことで安心できた。・題材があまり決まらなかったから良かった。・ジャンル分けが難しかった。・ジャンルを決めた後、どのように書けば良いかわからない。

5：題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。表現、構成、表現技法、文章量など

・書き出し、結びの文章がむずかしい。・自分の感情をそのまま書かず、読み手にわかりやすく書くのが大変だった。・表現技法が使えなかった。・構成が難しかった。・話が途中でずれてしまった。

6：作文を書くことは好きですか。

①はい 13

②いいえ 23

検証授業後に生徒が書いた「ひざし」作品より

【生徒が書いた「ひざし」のジャンル】

・将来…2名 ・好きなこと…8名 ・人間関係（家族・友達）…5名 ・部活…14名
・学校生活…4名 ・ペット…2名 ・住んでいる町…1名

選抜したひざし作品は、全て遠山中学校区区作品とした。そのため身近な地域名や知っている先輩の作品であったため、読んだり交流したりする際には大いに盛り上がった。アンケートにおいて、「題材決定の際に扱った作品の中で一番良かった」という部活について、実際の作文に書いている生徒が多い。古い作品に比べ、新しい作品が心に残っている生徒が多い。授業を通し、様々なジャンルの作品に触れることで、それまでは考えなかった題材も候補に入れる生徒もいた。また題材の候補にはあがりながらも、実際の作文では違うものになっていた生徒もいた。

授業をふりかえって

- ◎題材が決める際に、ひざしを読んだり、感想を交流することは、事後アンケートや作品から大きな効果があることがわかる。
- ◎気に入った作品の題材が、自分の題材決定の参考に繋がっている生徒が多い。（アンケート）
- ◎読ませる「ひざし」について、同じ学区や先輩、同級生、地域など教師が選抜することで、題材決定に広がりが出たり、高い関心をもって読むことができた。（アンケート）その後の作文において、家で資料を調べてくる生徒もいた。
- ◎教師が明確な意図を持ち、読ませる作品をコーディネートすることは、「ひざし」活用の一例である。ただ読むだけよりも交流やジャンル分けを入れることで、目的意識をもって読むことができる。題材決定から作文作成、それを使った交流など、ひざし活用のベースとなる指導案が必要。

- 作文を書くことが好きと答えた生徒はあまり変わらない。（アンケート）
- 教師が意図した「地域」についての題材で書く生徒が少なかった。
- ジャンル分けについては、題材決定に向けて有効性があまり高くなかった。（アンケート）
- 題材が決まっても、それに連続した表現の技術指導が必要。（アンケート）

提案2 【表現の工夫】

(1) 生徒の実態より

授業前のアンケート

国語の学習について		好きな言語活動	
国語の学習が好き	26 人	読むが好き	44 人
国語の学習が好きではない	15 人	書くが好き	21 人
どちらともいえない	40 人	話すが好き	18 人
		聞くが好き	30 人

書くことが好き 27

- 理由 ・自分の思うままを書けるから。・ふだん思っていることを自由に書けるから。
 ・自分なりに表現できるから。・自分の考えを相手に伝えることができるから。
 ・自分以外のことを書くのは好き。・集中できる。終わったときの達成感。・皆の考えがわかる。・文章を構成するのが好き。・新しい自分を発見するのがおもしろいから。

書くことが嫌い 57

- 理由 ・時間がかかってしまう。(2)・表現するのが難しい(2)・まとめるのが苦手(3)。「、」や「。」を忘れると全部書き直すのが嫌だ。・難しくてわからないから。(2)・書くことが思いつかない。(10)・書いているうちにごちゃごちゃになってしまう。(5)・自分のことを書くのが嫌い。(3)・書くことが大変。めんどくさい。・思うように文がまとまらない。

作文を書くときに困ること(全員から調査)

題名(10)。どのようなことを書くか。(15)流れ。字数をオーバーしてしまう。書くことがない。句読点、文の構成、セリフの入れどころ。段落の接続の言葉。書き出しをどうするか。どのような順序で書くか。(2)途中で書くことがなくなってしまう。どう表現するか。(14)句読点をつける位置。

本校の1年生は88名3学級で構成されている。学校全体に落ち着いた雰囲気生活しており、学習面でも向上心が高い生徒が多い。

授業前のアンケートから18%の生徒が「国語の学習は好きではない」と答えており70%の生徒が「作文を書くのは嫌い」と答えている。この数値を下げていくことが大事な課題であろう。

また、作文を書くのが好きだと答えている生徒の理由の中には、考えを伝えあうことの楽しさや発信することの楽しさなどに触れているものが多くみられた。好きな言語活動の結果を見ると「読む」「聞く」などの受け身の活動が好きな生徒が多く、積極的に発信しようという意欲に欠けるという実態が見られる。

そこで、自分の考えを発信して、他の人の考えを聞く場面を授業の中に組み込み、ひざしを使って交流することにより、楽しさを体感し自分も発信しようとする意欲が高まるのではないかと考える。

次にアンケートの結果から生徒が作文を書くときに困ることのベスト3は「何を書くか」「どう書くか」「題名のつけ方」であることがわかる。そこで、今回は「どう書くか」の表現を中心に「ひざし」をモデルとすることで、作文を書く力をつけていきたいと考える。

(2) 仮説について

仮説 1 ひざしをモデルとし、自分の気持ちと重なる題材や表現と出会うことで、創作への意欲が高まるであろう。

「ひざし」の教材的価値を生かし、交流の場面を作ることで、自分の考えを発信しようとする意欲が高まってくると考える。良い作文をまねすることで、自分の作文も形が整い、達成感を得ることができるであろう。

仮説 2 気になる表現を抜き出し分析をすることで表現の幅が広がっていくであろう。

「読むこと」とは表現を体験や知識と結び付けて認知することである。その活動を分析的に行うことで「この表現はこういう感情と結びついている」ということを知ることができる。また、感情は複雑で言葉に表しにくいものが多い。表現を知ることによってその複雑な感情の存在を知ることができる。

このような表現を認知する過程を分析的にとらえることで、自分の表現したいことを相手に伝えるためにはどう表現したらよいのかを知ることができるであろう。言語の正確さから言語の豊かさへ広げていくのには適切な題材であると考え。文集「ひざし」をモデルとして使うことにより、生徒の表現しようという意欲が高まるであろう。

(3) 指導計画

過程	学 習 活 動	形態
見出す 調べる	ひざしを読み、「光る言葉」「気になる言葉」にマーカーを引く。(1時間)	個人
深める	マーカーを引いた表現を分類してプリントに記入する。(1時間)	個人
	グループで話し合い表現を細分化する。(表現辞典を作る)(2時間)	グループ
まとめる	グループで作った表現辞典を発表し、クラスの表現辞典を作る。(2時間)	全体
活用する	表現辞典を活用してひざし作文を書く。(2時間)	個人

(4) 実践について

1 ひざしを読み、「気になる言葉」「光る言葉」にマークをする。

ひざし69号に掲載されている作文をすべて印刷して、生徒に渡す。タイトルを見て、興味を持った作文を読むように指示する。できるだけ、いろいろな作文から表現を抜き出してほしいので最初から順番に読むことを避けたいからである。

マーカーは二種類用意して「光る言葉」と「気になる言葉」(何か表現の工夫がありそうだが、何を表現しているかわからない言葉)に分けてマークをする。教師は生徒の作業を巡視してマークしている作文と言葉を把握しておく。

2 マークした言葉を分類してプリントに抜き出す。

個人でマークした言葉をプリントに書き抜く。この段階で「感情」「行動」「考え」「描写」等分類しながら記入していく。プリントはグループでの話し合いの準備のため、ページ、行数を記入しておくことや、のちに、さらに細分化していくことを確認する。「感情」については喜怒哀楽ぐらいの簡単な分け方をしておくのもよいと伝えた。プリントに最初から喜怒哀楽の欄を作らなかったのは、感情の複雑さを生徒が感じられるか知りたかったからである。とはいえ、分類の苦手な生徒には四つの分類は手助けになったようである。プリントの項目に当てはまらない場合は自分で項目を作って分類してもよいと付け加えた。

3 グループで話し合い表現辞典を作る。

グループは生活班の6人とした。学習班を編成する場合は4人で活動する場合が多いのだが、今回は課題が難しいのでリーダー（司会者）の役割が重要であることと、人数が多いほうが多様な表現が抜き出され、話し合いが活発になるのではと考えた。実際、普段の生活で班活動を共にしている集団なので組織的で活発な意見交換が行われた。脱線することもあったが、全員が意見を言い記録することができた。

話し合いの前に、細分化について説明した。感情にも色々あること、行動や会話には意味があることを確認した。グループに個別にアドバイスをしている時に「難しい」と漏らしている生徒もいたが、意見交換をしているうちに要領がわかってきて活発に話し合いが行われるようになった。

分類が簡単すぎるグループには「～な悲しみ」など修飾語を使って詳しくするようにアドバイスをした。自分の体験を話したり、意見がまとまらずに膠着状態になったり、様々な場面が見受けられたが、生徒たちは話し合いの楽しさを感じているようであった。

記録はノートに取らせ、全員が同じノートになるように指示した。「表現辞典」という言葉を使ったのは、いま行っている「読む」活動が次に行う「書く」活動のために行っているのだということ意識して欲しいからである。

4 全体で話し合い、クラスの表現辞典を作る。

今まで2回表現の抜き書きをしていることと、共有化の場面であることを踏まえて、生徒にはノートを取らせなかった。プロジェクターにパソコンを接続して、教師が生徒の意見を打ち込み、黒板に貼ったスクリーンに映し授業を進めた。書く作業がないので生徒は話し合いに集中できたようである。班の話し合いで出せなかった意見や、解決できなかった表現、納得できなかった考えなどが多く出された。グループの結論に納得できずに首をかしげている生徒もいたが、全体での話し合いや深まりによって納得できたようで、うなずいている様子もあった。クラスごとに抜き出された表現は微妙に違ってくるのだが、「比喩」、「擬人法」、「心象風景」、「体言止め」、「反復法」などは押さえるようにした。後日、印刷して生徒に配布した。

5 表現辞典を使い、生活作文を書く。

中学校に入学して二回目の作文だが、前回よりはるかに短い時間で書き上げることができた。題材選び、構成、タイトルの決め方、表現の仕方などの生徒の悩みが少しずつではあるが解消しているのではと思う。書き上げたら推敲してもう一度表現を見直させた。校正記号を一部教えて消しゴムを使わずに校正するように指示した。かなりの生徒が比喩を使うなど工夫した表現に心がけることができた。

(5) 成果と課題

授業後のアンケートより

楽しかった活動		興味を持った学習	
ひざしを読む	80%	「光る言葉」を見つけ出す	80%
「光る表現」を見つける	67%	表現を細分化する	40%
表現を分類する	34%	表現を工夫して作文を書く	45%
グループで話し合う	72%	あまり興味を持てなかった	6%
全体で話し合う	46%		
表現を工夫して作文を書く	46%		

生徒の感想

A 群 授業前のアンケートで「作文を書くことが好き」と答えた生徒の感想

- ・ 「光る言葉」がたくさん見つかって「こういう表現もあるんだ」と思った。班やクラスの皆で話合
うと、私の見つけられなかったのもいっぱいあって、楽しかったし興味を持った。
- ・ 表現が似ていてもその言葉に込められていることはどれも一つ一つが違うということがわかつた
りして楽しかったです。
- ・ 自分の好きな表現などが見つけられてとても楽しかった。
- ・ 「光る言葉」はたくさん見つけられたが、皆の意見もたくさんあって興味深かった。
- ・ 表現を見つけて実際に書くというのが特に楽しかった。
- ・ 作文を書いたり読んだりするのがとても楽しかった。
- ・ 作文を書くときに、なるべく光る言葉を多く使って書くのに苦労した。
- ・ どれが光る言葉か人それぞれなので、作文に生かすのが難しかったです。
- ・ 表現を工夫することで作文を書くことがもっと好きになりました。
- ・ 他の人がどのようなことを思っているのか話し合っ分かった。意見交換って面白いと思っ
た。
- ・ 「光る言葉」をみつけ、細分化していくのはとても面白く、楽しみながら学習ができました。普段
何気なく読んでいる文、何気なく話している言葉の中にも「光る言葉」があると思うとなんだか読
むこと、話すこと、書くことが今まで以上に楽しく感じました。
- ・ グループの話し合いはみんな楽しく、助け合いながらやっていたのでとても暖かい気持ちになりま
した。

B 群 授業前のアンケートで「作文を書くことが嫌い」と答えた生徒の感想

- ・ 表現を細分化することは初めてだったけど、「悲しみ」だけでも「こんなにあるのか」と面白かつ
た。
- ・ 「光る言葉」をみつけたりひざしを読んだりするのが楽しかった。
- ・ 自分で「光る言葉」を見つけてグループで他の人が見つけた光る言葉を共有することが楽しかった

です。

- ・ 作文を書くことをちょっと好きになれた。グループの活動は苦手だったけれど少しずつ意見を言えるようになった。
- ・ ひざしを読んでどのように作文を書いたらいいかわかった。
- ・ ひざしを読んでとても表現の仕方が勉強になりました。自分は作文を書くのはとても苦手ですが、今回作文を書くのはとても楽しかったです。
- ・ ひざしから言葉を見つけるのをもっと多くやりたかった。やっぱり作文を書くのが大変だったが、今回はいろいろな表現があったので少し楽になった。
- ・ 全体で話し合ったりすることでその内容がより深まったので良かった。
- ・ 「光る言葉」で作文を書くことは楽しかったです。僕はもっと光る言葉を見つけたいです。
- ・ 今回の学習で表現一つ一つ意味が深くあり、とても面白いものだということがわかりました。
- ・ ひざしを読むと表現の仕方が簡単になった。
- ・ プロジェクターを使った授業はわかりやすかったです。
- ・ はじめはそんなに興味を持たなかったけれどひざしを読んで表現について詳しく学習したら一番嫌だと思っていた作文が今までの中で一番楽しく感じることができました。
- ・ ひざしを読んで私と同じ体験をしている人がいっぱいいることがわかった。
- ・ 表現の仕方によって「悲しい」が「どんなふうに悲しい」「どのくらい悲しい」などたくさん区別することができた。
- ・ 表現の難しさとその表現のすごさがわかりました。
- ・ 前まではとても作文や国語が苦手で嫌いでした。しかし、毎回とても楽しく授業が受けられています。作文も前よりすらすらと書けて、書いているうちに楽しくなりました。
- ・ 表現を工夫して書くと話が面白くなったりして読みたくなる文になることがわかった。
- ・ 一言で表す感情より、何かに例えたりして表す感情のほうが伝わりやすくわかりやすいことに気づきました。
- ・ ひざしを読んだことで少しは自分の気持ちを上手に表す方法がわかったような気がした。
- ・ 表現を細分化して作者の気持ちを考えるようになった。

授業を振り返って

- ◎全体の8割の生徒がひざしを読む楽しさを感じることができた。
- ◎複雑な感情があることを知り、表現の豊かさを感じることができた。
- ◎自分と同じ中学生の作文を読み、共感することにより意欲が高まった。
- ◎見つけた表現をまねすることにより、作文の表現を工夫しようとする意識が高まった。
- ◎他の人と考えを交流することの楽しさを感じ、自分の考えや自分なりの表現（光る言葉）を発信したいという気持ちが高まった。
- ◎ひざしを読んだり、表現を抜き出したりすることが楽しくて、宿題にしていなくても家庭で取り組んでくる生徒がいた。

- たくさんの作文を与えたので、読んでいない生徒もいて話し合いに手間取った。短時間で終わらせるには、指導者の意図に沿った作文を与え、計画的に進めるべきであろう。
- すべての作文から表現を抜き出したいと思っている生徒もいて、もっと時間が欲しいと言っていた。意欲が高まった結果の気持ちだけにこたえられないのが残念である。
- 感情を扱うと個々の感覚の違いで、意見のすり合わせができずに、話し合いが止まることがあった。
- 見つけた「光る言葉」がぴったり合わなくて、自分の作文に生かすことが難しかった生徒が3割程度いた。しかし、ひざしを読み、モデリングをすることで作文を書くスピードは明らかに上がっている。

5 研究のまとめ

仮説1 ひざしをモデルとし、自分の気持ちと重なる題材や表現と出会うことで、創作への意欲が高まるであろう。

仮説2 ①題材決定 ひざしのなかで印象に残った題材について検討することで自分の題材が明確になるだろう。
③表現の工夫 気になる表現を抜き出し分析をすることで表現の幅が広がっていくであろう。

それぞれの実践で述べたとおり、子どもたちは同世代の子どもの作文を読み、感動したり共感したりすることで多くのことを学ぶ。適切な視点を与えることで、その学びを生かそうとする意欲が確実に高まった。また、具体的な例に多く触れることで、表現に関する知識が増え、自分の作品に生かすことができるようになる。

どこに視点を当てるかは、各教師の工夫のしどころであり、つけさせたい力を明確にし、指導過程を組んでいくべきであろう。その結果、子どもたちの意欲や表現力は必ず高まると考える。

1 題材名 体験したことを文章にする

2 題材について

(1) 題材観

目標 (2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。

言語活動例 B (2) ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。

内容 B (1) オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (ウ)
事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

* (以下略)

(2) 生徒の実態 (*略)

(3) 指導観

上記のような生徒の実態から、生徒の「読むこと」に対する意欲の高さを生かし、「ひざし」に載っている同世代の生徒の作品や、身近な友達の書いた作文を読み、交流することによって、「書く力」を伸ばすための方法を見つけ、今後に生かしていくことが、生徒の表現力を育てることにつながると考える。

当然のことながら、国語の力は、領域ごとに別のものではなく、各領域が相互に関係しあって成り立っている。生徒間の交流はもちろんのこと、「ひざし」を用い、読み合うことにより、学年や学校を越えて、同世代の筆者と交流することができる。そしてその交流を通して、自分自身の作品を振り返り、自分自身とも交流して、自己の書く力を高めていく。「ひざし」を用いることにより、生徒の意欲も高まり、交流という協働的な学習の効果も高まると考える。

毎年、ひざしの作品に取り組む時期になると、その指導方法に悩んでいた。また、教科書にはない題材としてひざしそのものを扱う際、年間計画にどのように位置づけるのか、時数の調整をどうするかなどを課題にしてきた。

教科書内の題材において、「ひざし」を扱い、生徒たちに文章を書くおもしろさ、価値を感じさせたい。書くことについてももちろんであるが、作文を読むこと、そして話し合い交流することの楽しさ、有用性も感じさせたい。書く力に限らず、国語の力を育てることは、一朝一夕でできることではない。今回の取り組みにおいて、生徒たちの交流が深まり、協働的な学習を通して、次回文章を書く際に生きる「表現の糸口」が見つかればよいと考える。

3 題材の目標

- ・自分の体験を元に考えや思いを持ち、積極的に表現しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ・マッピングにより題材を見つけ、構成を考えて作文を書くことができる。(書くこと)
- ・書いた文章を互いに読み合い、表現や構成について意見を述べるができる。(書くこと)
- ・他の作品に用いられている語句や表現から、その効果について考え、自分の表現の参考にすることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画 (8時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	指導のねらいと評価規準【評価方法】
一次	1	〔学習課題1〕 自分の今までの体験を振り返り、文章にする題材を見つけよう。	マッピングを通して文章にする題材を決めさせ、盛り込む内容を発想、整理させる。

		1, 文章にしたいキーワードを決める。 2, マッピングを行い, 発想を広げ, 文章にする題材を整理する。	・キーワードを元にマッピングを行い, 積極的に発想を広げようとしている。 (関心・意欲・態度)【ワークシート】 ・マッピングから題材を整理している。 (書くこと)【ワークシート】
二次	1	【学習課題2】 決定した題材, 内容を, 「始め - 中 - 終わり」の形で構成しよう。 1, 文章に盛り込みたい内容を簡条書きにまとめ, 「始め - 中 - 終わり」の形でワークシートに並べる。	盛り込む内容を簡条書きにし, ワークシートに並べ, 構成を考えさせる。 ・盛り込みたい内容を選択し, ワークシート上に並べようとしている。 (関心・意欲・態度)【観察】 ・ひざしの作品を参考に, 構成を工夫して盛り込む項目を並べている。 (書くこと)【ワークシート】
三次	3	【学習課題3】 完成させたワークシートを元に, 実際に文章を書いてみよう。 1, 前時に完成させたワークシートを元に, 実際に文章を書いていく。 2, ひざしを読み, 表現などを参考にしてもよい。	内容を広げ, 絞り, 構成したワークシートを元に, 表現を工夫して文章を書かせる。 ・ワークシートを元に, 自分の思いを積極的に文章にしようとしている。 (関心・意欲・態度)【観察】 ・表現を工夫して文章にまとめている。 (書くこと)【作文】
四次	1	【学習課題4】 ひざしに入選した作文を読み, よいところを挙げてみよう。 1, ひざしに入選した作文を読み, よいところや参考にしたいところなどを交流カード①に挙げていく。 2, 交流カード①を元にグループ内で話し合う。 3, グループで話し合った内容を全体に発表する。	文章を読む際の視点を提示し, 交流カードに意見を挙げさせる。話し合いの際は, 積極的に意見を発表させる。 ・作文のよいところ, 参考にしたいところを積極的に挙げようとしている。 (関心・意欲・態度)【観察】 ・文章を読む際の視点を理解し, 意見を述べている。 (読むこと)【交流カード①】
五次	1	【学習課題5】 ひざしへ向けて書いた文章を友達と読み合い, よいところを挙げてみよう。 1, 友達の作文を読み, よいところや参考にしたいところなどを交流カード②に挙げていく。	文章を読む際の視点を提示し, 交流カードに意見を挙げさせる。前時の学習から, どのような点を挙げたらよいかを意識させる。 ・友達の作文のよいところを見つけ, 交流カードに挙げている。 (読むこと)【交流カード②】
六次	1 本時	【学習課題6】 交流カード②を元に意見交換し, 自分の作品の改善点や今後に生かす点を見つけよう。 1, 交流カード②を元に意見を発表し合う。 2, 自分の文章について書かれた交流カードを受け取り, 話し合いを振り返り, 自分の作品の改善点や今後に生かしたいことをワークシートにまとめる。	交流カードを元に, 意見を発表し, 交流させる。発表の際は, わかりやすく伝えること, よく聞き, 発表に対する意見も述べることを意識させる。 ・交流カードを元に, 自分の意見を積極的に発表している。 (関心・意欲・態度)【観察】 ・交流を通して, 自分の作品の改善点や今後に生かしたいことをまとめている。 (書くこと)【ワークシート】

5 本時の指導（8／8）

（1）目標

- ・交流カードを元にグループ内で発表し合い、自分の作品の改善点や今後に生かしたいことをまとめている。（書くこと）
- ・積極的に意見を述べ、考えたことを文章にまとめようとする。（関心・意欲・態度）

（2）展開

輦	学習内容と学習活動	指導・支援（・） 評価（○）	資料
5	【見出す】 前時までの学習内容を確認する。 本時の学習内容を確認する。 学習課題：交流カード②を元に意見交換し、自分の作品の改善点や今後に生かす点を見つけよう。 意見交換の流れの確認と、その際のポイントを確認する。	・前時に読んだひざしに掲載された作文と、行った活動を振り返る。 ・どのような点を意識して意見を挙げたらよいかを示す。	学習課題（掲示） 文章を読む際の観点（掲示） 意見交換の流れ（掲示）
30	【考える】 交流カード②を元に意見を発表し合う。 【深める】 順番に発表し、発表に対する意見を述べ合う。	・まず、作者が作品について話をし、その後メンバーから意見を発表する。 ・意見はまとめやすく整理して言うよう伝える。 ・発表をよく聞き、発表に対する意見も述べることを意識させる。 ○グループ内で積極的に意見を述べている。 ○他者の意見を聞き、自分の考えを深めている。	作文 交流カード②
10	【まとめ上げる】 自分の文章について書かれた交流カードを受け取り、話し合いを振り返り、自分の作品の改善点や今後に生かしたいことをワークシートにまとめる。 考えた改善点、生かせることを発表する。	○交流から得た改善点や生かせることをワークシートに書いている。 ・なかなか書けない生徒には、受け取った交流カードからの抜き出しでよいことを伝え、まとめるための支援を行う。	交流カード② ワークシート
5	本時の活動を振り返り、次時の予告を聞く。	・交流の様子を評価し、述べる。 ・ワークシートを集め、授業後に再度評価する。	

[illegible][illegible][illegible]

この本は、 明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、 明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、	明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、	明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、	明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、	明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、	明治三十二年 三月に刊行 された。その 内容は、
--	---	---	---	---	---

体積したところを文庫にする。横の通のカード 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫	「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫 「文庫」は、文庫の人の、人の文庫の文庫
--	--	--	--	--	--	--	--

[illegible]

みんなからもらったアドバイスなどを参考に、次の作品に生かしていきたいアイデアが具体的に見つかっている。

第67次印旛教育研究会国語研究部全体集会
「書く」分散会

研究主題

ものの見方、考え方を深め、表現の力を高める作文指導のあり方

～印旛の文集「ひざし」を活用して～

資料編



ひざしプロジェクト チーム中学校

提案 1

資料 1

「ひざし」作成—題材を決めよう—

3年（組）（番）

【希腊国殇】

「ひざし」作成の題材を決めよう。

く気に入った作品について、

ワークシートのまとめや意見の交流を通して、

①「ひまじ」を讀んで、心がひかれた作品を記録しよう。

② 選んだ作題について、サンプル分けをしよう。

① 題名	黒き訪問者 移り変わる郷土 ひいおばあちゃんとの夏期
② ジャンル	家族 住んでいる町 家族

※チャンネルの例

・家族
・友達
・部活
・行事（入学式、修学旅行）

- ・けんか
- ・しなられたこと
- ・頑張ったこと
- ・悩んだこと
- ・授業

- ・ベスト
- ・好きなこと…
- ・なりたい
- ・好きなこと…
- ・自分で選んでもいい

③自分の題材を決めよう。

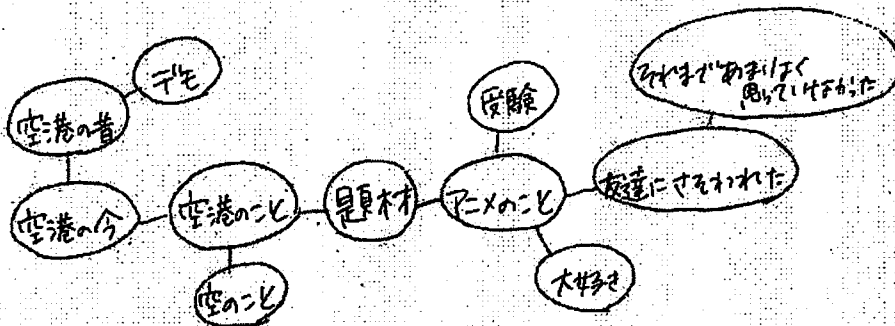
【自分の決めた題材】（書きたいこと、伝えたいこと）

今と昔一成田空港と三里塚

来い、と云ふ。誰が、何を、どうした話。できる人は、もう少し細かく。

自分の題材が決まらないとき……。

①②で選んだ題名もジャンルを使って、ママミートンクを試みよう。



3年（C）組（番）

「ひざし」作成の題材を決めよう。

く気に入った作品について、

ワークシートのまとめや意見の交流を通して、

- ①「ひざし」を履んで、心がひかれた作品を応募しよう。
- ②選んだ作品について、ジャンル分けをしよう。

英字ヤンバの例

- 家族
- 友達
- 部活
- 行事（入学式、修学旅行）

・住んでいる町

・ベスト・好きなこと… なにかな
・自分で考えてもいい

●自分で考えても良い

⑤自分の責任を決めるよう。

【自分の決めた題材】（書きたいこと、伝えたいこと）

火曜日、家にいにおこられた
いこの約束までもなかつた

※いつ、どこで、誰が、何を、どうした話（でさる人は、もう少し細かく）

3年（組）番

「ひざし」 作成の題材を決めよう。

く気に入った作品について、

ワークシートのまとめや意見の交流を通して

①「ひびく」を聴んで、心かひかれた作品を聴きましょう。
②選んだ作品について、ジャンル分けをしよう。

英字の例

・家族　・友達　・部活　・行事（入学式、修学旅行）

● 生んでいる時

- ・ スピット
- ・ 好むなにと…… なじむな
- ・ 自分で覚えても良い

●自分で考えても良い

④自分の置かれた状況をよく理解し、
⑤自分の置かれた状況をよく理解し、

【自分の決めた服を】（服をたていふ） ぼくをたていふ）

都浩

※いつ、どこで、誰が、何を、どうしたか
(できる人は、もう少し細かく)

※ 低学年 (小1.2.3) と高学年 (小4.5.6. 中学) は字数と行数が違います

一 生 徒

- 1行目に題名、2行目に姓各 (小・中は書かない)、3行目に学年 (○年) と氏名、4行目から本文を書く。
- 本文の場合は縦書きに書き出しを「一」で始めるが、詩の場合は全て「一」で始める。
- 作品の横書きの次の行に、「指導○○○○先生」と記入する。
- 「1」などは、「一」で分ける。ただし「1」は組んで「字」とする。
- 作品ごとに右上O印のところをとじる。

「ひさし」原稿用紙 (小学校四・五・六年・中学校用)

ひ

けの新千一ムにな。自分達が中バとな。て部活を。ていがないといけな。いし。自分のことだ。け。てなく。同

去年の今頃、秋達の先輩が引退して、二年生と一年生だ。た。

この言葉を聞いて、みんなが、さ。し。と重く。これに、春の大会が終わり、顧問の先生に言われた言葉。組んで下さい。

もうそうそう、次は、な。い。と。い。う。こ。と。を。し。は。り。考。え。て。取。一。三。年。成田市立遠山

最後まで

小学校四年以上の生徒はここに「ひさし」を記入し、(十文字) 又は「ひさし」を記入し、(十文字)

※ 低学年 (小1.2.3) と高学年 (小4.5.6. 中学) は字数と行数が違います

一 生 徒

- 1行目に題名、2行目に姓各 (小・中は書かない)、3行目に学年 (○年) と氏名、4行目から本文を書く。
- 本文の場合は縦書きに書き出しを「一」で始めるが、詩の場合は全て「一」で始める。
- 作品の横書きの次の行に、「指導○○○○先生」と記入する。
- 「1」などは、「一」で分ける。ただし「1」は組んで「字」とする。
- 作品ごとに右上O印のところをとじる。

それでも、母親は、は。く。正直で、ハ。リ。し。ま。し。た。

それでも、私は、祖父の言葉を見たくて、新蔵の市や祖父と仲。た。

い。だ。か。ら。撮。る。の。は。さ。き。で。字。リ。ス。が。ラ。な。い。ん。だ。と。言。わ。れ。ま。し。た。

私は、祖父の言葉を見たくて、正直で、は。く。父も親父は、正直で、は。く。

よく、父に祖父の話を聞かせる。た。

私は、正直で、は。く。祖父を見たくて、は。く。ありません。

一。三。年。成田市立遠山

一枚の言葉

小学校四年以上の生徒はここに「ひさし」を記入し、(十文字) 又は「ひさし」を記入し、(十文字)

資料3

国語科「ひざし」作成についてのアンケート

3年 組 番: 氏名()

★作文「ひざし」を作成し終えてのアンケートにご協力ください。
該当する番号に、○をつけて答えましょう。

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

①書きたい題材は決まっていた。

②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。

③グループで、題材について話し合いをしたこと。

④その他

2: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

①はい ②いいえ

3: どの作品が役かったですか(2つ〜3つまで)

③

どこが役だったか、理由をお願いします。

空港が建つときの様子がわかったから。

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

①自分でも似た経験が思い当たったから。

②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。

③知っている人(友達や先輩など)の作品で、自分も共感したから。

④自分では考えなかった題材があったから。

⑤その他(自由記述)

地域がらでほのことがわかったから。

3: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に意見交流をしたことはどうでしたか。
その理由をお願いします。

①役だった ②まあまあ役だった ③あまり役立たなかった ④役立たなかった

理由

題材決定ができたから。

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を覚えたり、話し合ったりしたことは、題材決定に役立ちましたか。

①とても役だった ②まあまあ役だった ③あまり役立たなかった ④全く役立たなかった

理由

参考にすべき文がどれかわかったから。

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。

表現、構成、表現技法、文章量など

構成の立て方 事実と感想の割合
文章の量 表現のしかた
おわり方

6: 作文を書くことは好きですか。

①はい

②いいえ

★ご協力ありがとうございました。

国語科「ひざし」作成についてのアンケート

3年 組 番: 氏名()

☆作文「ひざし」を作成し終えてのアンケートにご協力ください。
該当する番号に、○をつけて答えましょう。

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

①選んだ題材は決まっていた。

②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。

③グループで、題材について話し合いをしたこと。

④その他

2: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

①はい ②いいえ

3: どの作品が良かったですか(2つ〜3つまで)

セメントの下になる畑、牧場

どこが良かったか、理由をお願いします。

昔の三里塚があかるような感じがあったから

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

①自分でも似た経験が思い当たったから。

②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。

③知っている人(友達や先輩など)の作品で、自分も共感したから。

④自分では考えなかった題材があったから。

⑤その他(自由記述)

3: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に意見交換をしたことはどうでしたか。
その理由もお願いします。

①良かった ②まあまあ良かった ③あまり良くなかった ④良くなかった

理由

1と2のいい感じがあったから

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは、題材決定に役立ちましたか。

①とても役だった ②まあまあ役だった ③あまり役立たなかった ④全く役立たなかった

理由

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。

表現、構成、表現技法、文章量など

文章量

6: 作文を書くことは好きですか。

①はい

②いいえ

☆ご協力ありがとうございました。

国語科「ひざし」作成についてのアンケート

3年 組 番: 氏名()

★作文「ひざし」を作成し終えてのアンケートにご協力ください。
該当する番号に、○をつけて答えましょう。

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

①書きたい題材は決まっていた。

②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。

③グループで、題材について話し合いをしたこと。

④その他

2: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

①はい ②いいえ

3: どの作品が良かったですか(2つ〜3つまで)

⑦

どこが良かったか、理由をお願いします。

同じ科活の先輩といふ
すこやかにいふすこやかにいふが書いてあったから。

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

①自分でも似た経験が思い当たったから。

②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。

③知っている人(友達や先輩など)の作品で、自分も共感したから。

④自分では考えなかった題材があったから。

⑤その他(自由記述)

3: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に意見交換をしたことはどうでしたか。
その理由をお願いします。

①良かった ②まあまあ良かった ③あまり良くなかった ④良くなかった

理由

みんなの意見をきいて、題材が決めやすくなったから。

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは、題材決定に役立ちましたか。

①とても役立った ②まあまあ役立った ③あまり役立たなかった ④全く役立たなかった

理由

ジャンルは、あまり気にしていなかったから。

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。

表現、構成、表現技法、文章量など

表現が同じになってしまふ。構成がぐちゃぐちゃになってしまふ。

6: 作文を書くことは好きですか。

①はい

②いいえ

★ご協力ありがとうございました。

国語科「ひざし」作成についてのアンケート

3年組 姓名()

☆作文「ひざし」を作成し組立てのアンケートにご協力ください。
該当する番号に、○をつけて答えましょう。

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

- ①書きたい題材は決まっていた。

②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。

⑤グループで、題材について話し合いをしたこと。

④その他

2:過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

- ①はい ②いいえ

3: どの作品が良かったですか(2つ~3つまで)

私にその演義、境界を越えて

どこが良かったか、理由をお願いします。

良数 a に対して $a \equiv 1 \pmod{4}$ なる a は、

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

- ①自分でも似た経験が思い当たったから。

②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。

③知っている人（友達や先輩など）の作品で、自分も共感したから。

④自分では考えなかった題材があったから。

⑥その他（自由記述）

3:過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に見聞交流をしたことはどうでしたか。その理由をお願いします。

- ①良かった ②まあまあ良かった ③あまり良くなかった ④良くなかった

理由

自。 費。 不。 在。 方。 已。 知。 下。

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは、題材決定に役立ちましたか。

- ①とても役だった ②まあまあ役だった ③あまり役立たなかった ④全く役立たなかった

理由

・給食費は12月、750円、10月、

【作文全般について】

6: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。

表現、構成、表現技法、文章量など

久松、島、小幡、大塚、山崎、田中、

6: 作文を書くことは好きですか。

- ①たい

②いいえ

☆ご協力ありがとうございました。

国語科「ひざし」作成についてのアンケート

3年 組 番：氏名()

★作文「ひざし」を作成し終えてのアンケートにご協力ください。
該当する番号に、○をつけて答えましょう。

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

①書きたい題材は決まっていた。

②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。

④グループで、題材について話し合いをしたこと。

④その他

2:過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

①はい ②いいえ

3: どの作品が良かったですか(2つ~3つまで)

旅行と私。 さいおぼおんやんの最後 (5.8)

どこが良かったか、理由をお願いします。

・どちらの作品も、自分の気持ちや、わかりやすいたとえて書いてあったこと
あと、どちらも暗く、悲しい話だったからです。

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

①自分でも似た経験が思い当たったから。

②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。

⑧知っている人（友達や先輩など）の作品で、自分も共感したから。

④自分では考えなかった題材があったから。

⑤その他（自由記述）

「著者方」に関しては、とて参考にはなっていないと、「題材」決定の参考にしてはならない。

3:過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に見聞交流をしたことはどうでしたか。その理由もお願いします。

①良かった ②まあまあ良かった ③あまり良くなかった ④良くなかった

理由

自分以外の人から送る作品を読むこと、聞くことで、新しいジャンルに出会えたから

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を替えたり、話し合ったりしたことは、題材決定に役立ちましたか。

①とても役だった ②まあまあ役だった ③あまり役立たなかった ④全く役立たなかった

理由

元から題材が豊富だったため、不要だった。

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。

表現、構成、表現技法、文章構成など

表現。読んでいる人にとって、わが国や海外の事情が考えが
著しく大分変わった。これは題名が毎度決まっていた……。

6: 作文を書くことは好きですか。

①はい

はいえ

☆ご協力ありがとうございました。

国語科「ひざし」作成についてのアンケート

3年 組 番: 氏名 ()

★作文「ひざし」を作成し終えてのアンケートにご協力ください。
該当する番号に、○をつけて答えましょう。

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

① 読みたい題材は決まっていた。

② 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。

③ グループで、題材について話し合いをしたこと。

④ その他

2: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

① はい ② いいえ

3: どの作品が良かったですか。(2つ~3つまで)

涙のうしろ。 ひろおはあじやんの敵役(5,8)

どこが良かったか、理由をお願いします。

どちらの作品も、自分の気持ちや、わかりやすいとえてきて、あったこと
あとい、どちらも暗く、悲しい話だったからです。

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

① 自分でも似た経験が思い当たったから。

② 自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。

③ 知っている人(友達や先輩など)の作品で、自分も共感したから。

④ 自分では考えなかった題材があったから。

⑤ その他(自由記述)

「書き方」に関しては、とても参考になりました。また、「題材決定の参考」には、
「涙のうしろ」です。

3: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に意見交換をしたことはどうでしたか。
その理由をお願いします。

① 良かった ② まあまあ良かった ③ あまり良くなかった ④ 良くなかった

理由

自分以外の人が選んだ作品を読むこと、聞くことで、新しいジャンル
に出会えたから

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは、題材決定に役立ちましたか。

① とても役立った ② まあまあ役立った ③ あまり役立たなかった ④ 全く役立たなかった

理由

元々題材が決まっていたため、必要なかった。

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。

表現、構成、表現技法、文章量など

表現。読んでいる人にとって、わかりやすいか、どうも書けないか、
書くのが大変だった。これは題名が毎度決まらなかった……。

6: 作文を書くことは好きですか。

① はい

② いいえ

★ご協力ありがとうございました。

1: 国語は好きですか。

①好き...14 ②好きではない...5 ③どちらでもない...16

2: 国語の学習でどのような学習が好きですか。(1つ以上、複数可)

①読む...19 ②書く...8
③話す...2 ④聞く...14 ⑤漢字や言葉の学習...6

⑥書くことについて聞きます。

3: 作文を書くことは好きですか。

①好き...11 (内、「国語が好き」は4、「好きではない」は0、「どちらでもない」は7)

【理由】

【国語が好き】と答えた生徒

・自分が思ったことを書けるから。・自分の思いを書き、他人に伝えられるから。・最初が浮かべずぐに書けるから。

【どちらでもない】と答えた生徒

・書いていて楽しいから。・自分のことをしっかりと書き留められるから。・そのときのことを思い出せるから。・書くことを機に思うところ、不思議なことが浮かんでくるから。・すらすらと書けるから。・好きだから。・条件によるが、自由なら好き。・時間が過ぎるのが早いから。

②嫌い...24 (内、「国語が好き」は8、「好きではない」は6、「どちらでもない」は11)

【理由】

【国語が好き】と答えた生徒

・何を書けばいいかわからない。・内容がなかったり、文章をあまり書けなかったり、語の終わりがなかったりするから。・書いているうちにずれてきて、わけがわからなくなるから。後に読んでも評されるから。伝えたいことがうまく伝わらないから。・長い、寝れる、面倒くさい、時間がかかる。・書くのが遅いから。・文章力がない、題材がうかばない。・自分の考えがうまく文にできないから。

【国語が好きではない】と答えた生徒

・語が読まれないから。・嫌いだから。・文章力がないから気持ちを文章に表せず、長文が書けない。・書いていくうちに寝てくる。書くのが大変。・考えて書くのがきらい。

【どちらでもない】と答えた生徒

・苦手だから。・自由作文だと何を題材にかけばいいかわからない。書きたいことが書けなくていやになる。・書くことが難しいから。・書か方がわからない、必要性がわからない。・色々条件があるときらい。・長い文章を書くのが苦手。・表現力がないし、自分の思いを書けない。

4: 作文を書く時悩むことは何ですか。(自由記述)

【国語が好き】と答えた生徒

- ・どう書いたらより効果的に伝わるのか、その時の素直な気持ちを書けるか。嫌いではないけれど、難しいし、少しめんどくさいなあと思う。
- ・漢字がわからないときや文が思いつかないとき。
- ・題名が決まらない。
- ・題名を書き出し。
- ・構成をどうするか。
- ・その時の感情をどのようにして文字に表すか。
- ・段落ごとの終わりが同じにならないようにする。
- ・語の落ちをどうするか。
- ・どこに焦点を合わせて書けばいいのか。
- ・語をふくらませると、ずれてしまうからどこまで書いていいかわからない。
- ・どうやって伝えたいことを伝えるか。
- ・何を書こうか、何を書いたらいいか。
- ・文を書くのがきらい。
- ・題材を決める。どんな文章を書くか。
- ・うまくまとめることができない。
- ・題材が思いつかない。(2)
- ・表現やあてはまる言葉が思いつかない。自分の思っている通りに書き込められない。

【国語が好きではない】と答えた生徒

- ・書き出しが決まらない。
- ・自由作文と言われても、何を書いたらいいかわからない。書くことがない。
- ・語が読まれない。途中で語がわからなくなる。
- ・最初から最後まで悩む。
- ・語、終わりがた、書き出し、感情表現、文章のつなぎ方。
- ・書きたいことがない(決められていけば)
- ・何を書いたらいいかわからない。題名が全くわからない。

【どちらともいえない】と答えた生徒

- ・題名が決まらない。
- ・段落をどこで表えるか。
- ・書き出しの方法。
- ・書く内容。
- ・文字数。書こうと思ったものを忘れてしまう。
- ・漢字が書けない。日本語がおかしくなる。作文を書くときのルールを忘れる。
- ・どの語で書くか思いつかない。
- ・内容を長く書けない。同じことを何回も書いてしまう。
- ・題材。何かから書けばいいのか。内容の読ませ方。文のつなぎ方。

・話の構成

・書いているうちにわからなくなる。そもそも題材が決まらない。

・題材が決まらない。

・題名とかを考えるのが難しい。書いているうちに内容が違っててしまう。

・例に倣したいかわからない。文が作れない。何したいかわからない。

・条件作文だと、面倒くさい。

アンケートの結果より、国語に対して半敬態度は「①好き」「⑤どちらでもない」と回答しているように、前向きに授業に取り組める生徒が多い。国語の活動の中では「読むこと」が好きな生徒が多い。本校で一方実施している朝読書の成果もあり、文章を読むことに対する抵抗は低い。一方で作文を「書くこと」に対しては、「好き」が11、「嫌い」が25と、半数以上の生徒が書くことに対しては積極的ではない。その理由は様々あるが、波線部にあるように「何を書いて良いかわからない(題材)」、「書いているうちにわからなくなる(構成)」、「書きたいことが書けない(表現)」、「めんどくさい(意欲)」等いくつもの苦手意識が重なり、それが書くことへの抵抗につながっていることがアンケートから推察される。一方で、好きな理由(傍線部)をみると「思ったことを伝えられる」や「伝えられる」等、自分の考えや気持ちも相手に伝えられる生徒にとっては、前述の抵抗感よりも喜びの方が勝っていることが読み取れる。ここからは作文の抵抗感を減らし、相手に伝わる体験をさせることで、作文への意欲が高まるのではないかと考えられる。

(3) 指導観

指導に当たって、仮説は以下である。「心に決った作品の題材について整理することを通して自分が書きたい題材が明確になれば、意欲的に作文を書くことができるであろう。」そのための手立ては、「様々な題材に触れ、その中で心に決った作品とその題材についてワークシートを使用しまとめる。」「まとめたワークシートを使って、小グループで交流し、お互いに気に入った作品を紹介し合う中で、自分の題材について考えさせる。」作文については、いきなり本文を書かせるのではなく、①題材決め、②構想メモ、③本書きというように段階を違い、活動の流れや振り返りを通して、「伝えたいことを明確」「伝えたいことを整理」など自分の「伝えたいこと」を常に意識しながら、ぶれないように仕掛けていく。今回は、アンケートからも多くの「題材が決まらない」という意見があったため、特に①題材決めにおいてはしっかりと考えさせたい。そこで「ひざし」のバックナンバーを大いに活用する。近年のものだけでなくベスト版ともいえる「ひざしの子ら」からも作品を紹介し、様々な題材の作品に触れさせる。特に本校や本学区小学校の作品は積極的に紹介し、自分たちの郷土の歴史や地域の未来についても考えるきっかけとしたい。過去の作品を読み、「自分だったら何を書こうか」と自身の題材を決定する。そのための手立てとし、ワークシートに心に決った作品の題名を記録する。身近な友人や先輩が書いた生活の中での思いや体験、郷土の歴史などを読む中で、「これなら自分もある」というような「伝えたい題材」を見つめられると良い。その中で、今まであまりなかった郷土を題材に書く生徒が出てくることも期待したい。また、題名の距離後、題材についてのジャンル分けも行う。自分の心に決った「ひざし」作品が、どんな題材を扱っているか考えることで、自分の題材決定の方向性がかりとっていく。

また今年度の本校の研究主題は「学力向上・学びあい活動の充実を通して」である。ワークシートで題材についてまとめたことを、さらに広げるための交流として、小グループ発表の場を設定する。その際は、ワークシートに記録した作品のどこが良かったかを言葉で補足させる。ここについてはうまく

伝えられない生徒もいると想定させる。ただ今回はその作品がなぜ良かったの理由説明よりも、お互いに心に決った作品の紹介を通して、作品に選ばれた題材について考えが広がればよい。自分の意見と違う題材の魅力に気づかせながら、最終的に自分の題材がはっきりと決めることに重点を置きたい。作文において、構成や表現も大切な要素である。しかし今回は何よりも自分が「伝えたい」題材は何かについて、しっかりと考え交流する中で決定することで、その後の取り組みを意欲的に行わせたい。またその際に、「実質・能力を育成するための『主体的・対話的で深い学び』」リーフレットのステップ3にある読書改善の3つ手立てから、「手立て1『問いの工夫』」を意欲する。最終的に自分の思いが書けたという体験につなげるためにも、まずは納得した題材決定をさせたい。その上でワークシートを使いながら構成を決め、表現にもこだわらせながら作文を完成させていきたい。また、完成した作文については、お互いに読み合うことで、自分の考えが「伝わった」という体験ができるまで指導していったらと考えている。

3 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を使い、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

【書くこと】

・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の信頼性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。
・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解することができる。

4 指導計画(6時間扱い)

学習過程	時間	学習内容と学習活動	評価基準 (評価の観点・評価方法)
一次 【見いだす】 【調べる】	1	I 自分が「ひざし」作成の題材決定に向けて、自分が書きたいこと、伝えたいことを明確にすることを伝える。 II 「ひざし」、「ひざしの子ら」から抜粋した作品をグループで渡し、読む。	・「ひざし」を真剣に読んでいます。また読む中で自分の題材について考えている。 ・ワークシートに気に入った作品を選び、記録している。またその記録を通して、題材について考えている。 (観察・ワークシート)
本時		III ワークシートに気に入った作品を記録する。その際に、作品の題材についてジャンル分けを行う。 IV ワークシートにまとめた作品について、小グループで交流を行う。 V 交流を踏まえて、自分の伝えたい「題材」を決定する。	・ワークシートの作品について、どこに書かれたか紹介や説明している。 ・友達の紹介や説明について真剣に聞いている。また聞きながら、自分の題材について考えている。(観察) ・ひざしを読んだり、ワークシートにまとめた後、友達の話を聞いたことを参

		考にしながら、自分の伝えたい題材を決める。(書く・ワークシート)
二次 【探める】	2	I 題材を元に、ワークシートを使って構成を考える。 ・ワークシートを通し、決めた題材について、どのように話を展開すれば良いか、効果的な構成を考える。 (書く・ワークシート)
三次 【まとめあげる】	3 5	I ワークシートを使い、実際に「ひざし」作品の作文に取り組む。 ・ワークシートをもとに、自分の書きたいこと、伝えたいことを書こうとしている。(観察) ・ワークシートをもとに、より効果的な表現を意識して作文に取り組んでいる。 (書く・ひざし原稿用紙)
四次 【まとめあげる】	6	I 書き上げた作品をお互いに読み合う。 II 感想を交流する。 III 交流を受けて、作品の遂行を行う。 ※完成した作品は校内選を経て、進考会に出品する。 ・作品を読み、相手の書きたいこと、伝えたいことをつかもうとしている。 ・作品の感想やよりよくするための意見を、前向きに伝え合っている。(観察) ・交流をいかし、よりよい作品に遂行している。(書く・ひざし原稿用紙)

5 本時の指導

(1) 目標

- ・様々な作品を読むことを手がかりとして社会生活の中から題材を決めるために、自分の経験や知識を整理して考えをまとめようとする。(図解への関心・意欲・態度)
- ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすること。(書くこと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	・導入 前時までの学習内容を確認する。	・アンケート結果をグラフにしたものを示す。	アンケート
3	・本時の学習課題を理解する。 「ひざし」の題材を決めよう。 ～気に入った作品について、ワークシートのまとめや意見の交流を通して～		
15	・「ひざし」を読む。 ・今回は小グループにして、「ひざしの子ら」から教師が選んだものも回し読みする。 ・気に入った作品の題名は、ワークシートに記録しておく。	・最終的に自分の作品の題材を決めることを確認する。 ・昔の生活や郷土の歴史を感じる作品も入れ、題材として考えてみることも良いと伝える。 ・ジャンル分けと同時にさせず、気に入った作品を選ぶことに集中させる。 ・できればなぜその作品が良かったか、理由をいえるようにする。	ワークシート

5	・ワークシートに記録した作品の題材を考え、ジャンル分けする。 (図の思考)	・ジャンルはあらかじめ例を示し、分けやすくする。 ・題材をジャンル分けしながら、出てきたジャンルの中で書きたいことや伝えたいことがないか考えさせる。	ワークシート
10	・小グループを作り、お互いの気に入った作品を紹介する。その際に分けたジャンルについても伝える。 (広げる交流) (集団の思考)	・友達を紹介を聞きながら、どんなところが良かったか理解する。 ・自分と同じ題材でも、どこが良かったのか聞き分ける。 ・自分が選ばなかった題材は、どうして良かったのか理解する。 ・自分の題材決定の参考とする。(観察)	ワークシート
9	・これまでの取り組みを振り返りながら、自分の書きたいことや伝えたいことについて考え、題材を決める。(図の思考)	○ (ワークシート) 自分が書きたいことや伝えたいことなど、納得した題材を決めることができる。 A: 今までの取り組みをいかし、自分の納得した題材を決め、ワークシートに記述することができる。より効果的に伝えるため構想やメモを添って作成している。 B: 今までの取り組みをいかし、自分の納得した題材を決め、ワークシートに記述することができる。 C: 題材が決まれない、ワークシートを見て、記録されたジャンルについて、マッピングなどの平立てを使い、題材を決めさせる。	ワークシート
1	次時の予告をする。	・次回は決めた題材を元に構想メモを作る。	

(3) 板書計画

一、「ひざしの子ら」からの作品を読む。 ○自分の題材決定の参考にする。 ○気に入った作品は、ワークシートに記録する。 二、題材のジャンル分けをしよう。 ○例を参考に、作品の大きな題材ジャンルを決めて分ける。 三、小グループで気に入った作品を紹介し合おう。 ○自分の題材決定の参考にする。 ○どこか良かったか聞き取る。 ○題材のジャンルにも注目する。 四、題材決定。 ○ワークシートに題材を決定する。	ひざし作成 気に入った作品についてワークシートにまとめたり意見を交流を通したりして、自分の題材を決めよう。
--	---

6 授業実践後の考察

1) 生徒の実態 (全国学力・学習状況調査や授業アンケート)

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果については以下の通り

	全国	県	本市	県との差	H27年度
国語A (知識)	75.6	76.1	75.5	-2.6	
国語B (活用)	66.5	66.9	66.5	-4.7	
数学A (知識)	62.2	60.3	61.5	-11.0	
数学B (活用)	44.1	42.7	43.5	-7.1	

全国や県の平均点に比べると、本校は下回っている。しかし、H27年度平均点に比べると、上昇傾向にある。H28年度末に行われた「生徒による授業アンケート結果」からは、話し合いや教え合いの時間の確保については「そう思う」が70%とある一方で、授業を通して力がついたかについては「そう思う」が50%程度にとどまっている。その時間、単元を通し、何を学習したかが生徒が把握していない実態がわかる。

2) 事後アンケートより

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。(いくつでも)

- ①書きたい題材は決まっていた。 20
- ②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。 16
- ③グループで、題材について話し合いをしたこと。 3
- ④その他 3
- ・自分の身近なこと ・マッピング (2)

2: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

- ①はい 25
- ②いいえ 11

3: どの作品が良かったですか (2つ〜3つまで) どこが良かったか、理由をお願いします。

- ①牧場へ行こう (好きなこと) …1
- ②セメントの下になる畑 (住んでいる町) …2
- ③移り変わる郷土 (住んでいる町) …3
- ④牧場 (住んでいる町) …2
- ⑤旅行と私 (学校生活) …7
- ⑥私達の演奏 (部活) …11
- ⑦限界を超えて (部活) …21
- ⑧ひいおばあちゃんの最期 (人間関係) …11
- ⑨馬を訪問者 (日常生活) …7

理由

- ・気持ちが表現されていて感動したから。
- ・部活に対する思いや書き方に魅力を感じた。題名も工夫されていた。
- ・気持ちや感情の表現がすごく伝わってきて臨場感があった。
- ・自分の気持ちを表現するところがすごく上手に書けていた。
- ・どちらの作品も、自分の気持ちがわかりやすいたとえて書いてあった。
- ・どれも自分の体験とその時の気持ちをしっかりと書いていた。
- ・気持ちがわかりやすい、共感できる。
- ・場面や移り変わり、感情の表し方。
- ・その時の感情がわかりやすく書いてあった
- ・昔の三里塚がわかる感じが良かったから。
- ・元から題材はきまっていたので、感じなかった。

- ②時代を感じたから。旅行に行けなかった悔しい気持ちがとても伝わってきた。
- ③空気が座つときの様子がわかったから。
- ④暗い感じだったから。
- ⑤限界はなかなか超えられないが、あきらめなければ超えられるとわかった。
- ・頑張っていることを振り返っているのが良かった。
- ・自分を追い込んでいい結果を出そうとしている所。
- ⑥ひいおばあちゃんがどれだけ大切にしてくれたか伝わってきた。
- ⑦めずらしい体験だとびっくりした。
- ・知らない間にいろいろなことが起きてびっくりしていた。

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

- ①自分でも似た経験が思い当たったから。 12
- ②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。 15
- ③知っている人 (友達や先輩など) の作品で、自分も共感したから。 17
- ④自分では考えなかった題材があったから。 10
- ⑤その他 (自由記述)
- ・読むだけで、そこまで考えていなかった。
- ・地域のことがあった。
- ・自分に今起きていることを書こうと思った。
- ・地域ならではのことがあった。
- ・書き方に関してはとても参考になったが、題材決定の参考にはならなかった。

3: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に見聞交流をしたことはどうでしたか、その理由をお願いします。

- ①良かった 13
- ②まあまあ良かった 18
- ③あまり良くなかった 4
- ④良くなかった 1

理由

- ・自分の題材決定になった。
- ・自分にはわからなかったところを、他の人がわかっていて自分の学習につながった。
- ・自分だけでなく、他人の意見も聞いて題材決定に繋がったのが良かった。
- ・みんなの意見を聞いて、自分の題材が決めやすくなった。
- ・自分以外の人が選んだ作品を読むこと、聞くことで新しいジャンルに会えたから。
- ・同じ作品でも見方が違ったから。
- ・成田の移り変わりのとらえ方が、人それぞれあった。
- ・空想の話が多く感想が似ていた。
- ・自分では選ばなかったものが開けた良かった。
- ・他の人の視点になるほどと思った。
- ・あまり意見がでなかった。
- ・内容があまりわからなかった。

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは題材決定に役立ちましたか。

- ①とても役立った 6 ②まあまあ役立った 14
③あまり役立たなかった 12 ④全く役立たなかった 4

理由

- ・ジャンルを考えることによって、自分の書こうとしているジャンルが明確になって良かった。
- ・自分の題材決定に不安があったが、ジャンルについて考えたことで安心できた。
- ・自分が考えていた題材に近いジャンルがあったから。
- ・題材があまり決まらなかったから良かった。
- ・自分の題材を絞るために役立った。
- ・自分が参考にする作品がわかった。
- ・そんなに自分の作品に影響なかったから。
- ・題材はだいたい決まっていた。
- ・ジャンル分けが難しかった。
- ・ジャンルをきめてもあまり書けなかった。
- ・ジャンルを決めた後、どのようにひざしを書けば良いかわからない。

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。表現、構成、表現技法、文章量など

- ・書き出しがむずかしい。
- ・結びの文章がむずかしい。
- ・自分の感情をそのまま書かず、読み手にわかりやすく書くのが大変だった。
- ・表現技法が使えなかった。
- ・どのような構成にするのか考えるのが難しかった。
- ・話が途中でずれてしまった。

- ・表現が同じになってしまう。構成がぐちゃぐちゃになってしまう。
- ・表現、読んでいる人にとってわかりやすい表現かどうか考えながら書くのが大変だった。
- ・題名が毎回決まらない。
- ・書いているうちに書くことがなくなってくる。
- ・文章量がさつい。
- ・表現の仕方がわからない。構成も微妙だったし、文章をむりやりつなげた感じがする。

6: 作文を書くことは好きですか。

- ①はい 13 ②いいえ 23

3) ワークシートより

※資料参照

4) 読解選読後に生徒が書いた「ひざし」作品より

【検定授業で紹介したひざし作品（ジャンル）】…アンケートで良かったと答えた人数

- ①牧場へ行こう（好きなこと）…1
②セメントの下になる娘（住んでいる町）…2
③移り変わる郷土（住んでいる町）…3 ①～⑤は「ひざしに子ら」より古い作品
④牧場（住んでいる町）…2
⑤旅行と私（学校生活）…7
⑥私達の演奏（読後）…11
⑦境界を超えて（読後）…21
⑧ひいおばあちゃんの最期（人間関係）…11 ⑥～⑧は近年の「ひざし」からの新しい作品
⑨黒き訪問者（日常生活）…7

【生徒が書いた「ひざし」のジャンル】

- ・将来…2名
- ・好きなこと…8名
- ・人間関係（家族・友達）…5名
- ・読後…14名
- ・学校生活…4名
- ・ペット…2名
- ・住んでいる町…1名

2) 事後アンケートより

【題材の決定について】

1: 題材を決定する際に参考にしたことは何ですか。（いくつでも）

- ①書きたい題材は決まっていた。 20
②過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」の作品を読んだこと。 15
③グループで、題材について話し合いをしたこと。 3
④その他 3
・自分の身近なこと ・マッピング (2)

2: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読んだことは、題材の決定に役立ちましたか。

①はい 25 ②いいえ 11

3: どの作品が良かったですか(2つ〜8つまで)どこが良かったか、理由をお願いします。

- ①後編へ行こう(好きなこと) … 1
- ②セメントの下になる畑(住んでいる町) … 2
- ③移り変わる郷土(住んでいる町) … 3
- ④牧場(住んでいる町) … 2
- ⑤旅行と私(学校生活) … 7
- ⑥私達の演奏(部活) … 11
- ⑦限界を超えて(部活) … 21
- ⑧ひいおばあちゃんの最期(人間関係) … 11
- ⑨黒き訪問者(日常生活) … 7

理由

- ・気持ちや表現されていて感動したから。
- ・部活に対する想いや書き方に魅力を感じた。題名も工夫されていた。
- ・気持ちや感情の表現がすごく伝わってきて臨場感があった。
- ・自分の気持ちや表現するところがすごく上手に書けていた。
- ・どちらの作品も、自分の気持ちがわかりやすいとえて書いてあった。
- ・どれも自分の体験とその時の気持ちをしっかりと書いていた。
- ・気持ちがわかりやすい、共感できる。
- ・場面の移り変わり、感情の表し方。
- ・その時の感情がわかりやすく書いてあった
- ・昔の三重県がわかる感じが良かったから。
- ・元から題材はきまっていたので、感じなかった。

- ②時代を感じたから。旅行に行けなかった悔しい気持ちがとても伝わってきた。
- ③空海が通つときの様子が良かったから。
- ⑤暗い感じだったから。
- ⑦限界はなかなか超えられないが、あきらめなければ超えられるとわかった。
頑張っていることを振り返っているのが良かった。
自分を追い込んでいい結果を出そうとしている所。
- ⑧ひいおばあちゃんがどれだけ大切にしてくれたか伝わってきた。
- ⑨めずらしい体験だとびっくりした。
知らない間にいろいろなことが起きてびっくりしていた。

3: 作品のどんなところが、題材決定の参考になりましたか。(いくつでも)

①自分でも似た経験が思い当たったから。 12

②自分の知らなかったことや考えなかったことを読み、関心が広がったから。 15

③知っている人(友達や先輩など)の作品で、自分も共感したから。 17

④自分では考えなかった題材があったから。 10

⑤その他(自由記述)

- ・読むだけで、そこまで考えていなかった。
- ・地域のことやわかった。
- ・自分に今起きていることを書こうと思った。
- ・地域ならではのことがわかった。
- ・書き方に関してはとても参考になったが、題材決定の参考にはならなかった。

3: 過去の「ひざし」や「ひざしの子ら」を読み、その後に意見交換をしたことはどうでしたか。
その理由をお願いします。

①良かった 18 ②まあまあ良かった 18
③あまり良くなかった 4 ④良くなかった 1

理由

- ・自分の題材決定になった。
- ・自分にはわからなかったところを、他の人がわかっていて自分の学習につながった。
- ・自分だけでなく、他人の意見も聞いて題材決定に繋がったのが良かった。
- ・みんなの意見を聞いて、自分の題材が決まりやすくなった。
- ・自分以外の人が選んだ作品を読むこと、聞くことで新しいジャンルに会えたから。
- ・同じ作品でも見方が違ったから。
- ・成田の移り変わりのとらえ方が、人それぞれあった。
- ・空海の語が多く感想が似ていた。
- ・自分では選ばなかったものが聞けた良かった。
- ・他の人の視点になるほどと思った。
- ・あまり意見がでなかった。
- ・内容があまりわからなかった。

4: 良いと思った作品の「ジャンル」を考えたり、話し合ったりしたことは題材決定に役立ちましたか。

①とても役立った 6 ②まあまあ役立った 14
③あまり役立たなかった 12 ④全く役立たなかった 4

理由

- ・ジャンルを考えることによって、自分の書こうとしているジャンルが明確になって良かった。
- ・自分の題材決定に不安があったが、ジャンルについて考えたことで安心できた。
- ・自分が考えていた題材に近いジャンルがあったから。
- ・題材があまり決まらなかったから良かった。
- ・自分の題材を絞るために役立った。
- ・自分が参考にする作品がわかった。

- ・そんなに自分の作品に影響なかったから。
- ・題材はだいたい決まっていた。
- ・ジャンル分けが難しかった。
- ・ジャンルをきめてもあまり書けなかった。
- ・ジャンルを決めた後、どのようにひざしを書けば良いかわからない。

【作文全般について】

5: 題材が決定し、実際に作文を書く中で大変だったことは何ですか。表現、構成、表現技法、文章量など

- ・書き出しがむずかしい。
- ・結びの文章がむずかしい。
- ・自分の感情をそのまま書かず、読み手にわかりやすく書くのが大変だった。
- ・表現技法が使えなかった。
- ・どのような構成にするのか考えるのが難しかった。
- ・話が途中でずれてしまった。
- ・表現が同じになってしまう。構成がぐちゃぐちゃになってしまう。
- ・表現。読んで人にとってわかりやすい表現かどうか考えながら書くのが大変だった。
- ・題名が毎回決まらない。
- ・書いているうちに書くことがなくなってくる。
- ・文章量がきつい。
- ・表現の仕方がわからない。構成も微妙だったし、文章をむりやりつなげた感じがする。

6: 作文を書くことは好きですか。

①はい 13 ②いいえ 23

3) ワークシートより

※資料参照

4) 検証授業後に生徒が書いた「ひざし」作品より

【検証授業で紹介したひざし作品（ジャンル）】…アンケートで良かったと答えた人数

- ①牧場へ行こう（好きなこと）…1
- ②セメントの下になる娘（住んでいる町）…2
- ③移り変わる郷土（住んでいる町）…3 ①～⑥は「ひざしに子ら」より古い作品
- ④牧場（住んでいる町）…2
- ⑤旅行と私（学校生活）…7
- ⑥私達の演奏（部活）…11
- ⑦限界を超えて（部活）…21
- ⑧ひいおばあちゃんの最期（人間関係）…11 ⑧～⑩は近年の「ひざし」からの新しい作品
- ⑨黒き訪問者（日常生活）…7

【生徒が書いた「ひざし」のジャンル】

- ・将来…2名
- ・好きなこと…8名
- ・人間関係（家族・友達）…5名
- ・部活…14名
- ・学校生活…4名
- ・ペット…2名
- ・住んでいる町…1名

選抜したひざし作品は、全て遼山中学校区の作品とした。そのため身近な地域名や知っている先輩の作品であったため、読んだり交流したりする際には大いに盛り上がった。アンケートにおいて、「題材決定の際に扱った作品の中で一番良かった」という部活について、実際の作文に書いている生徒が多い。古い作品に比べ、新しい作品が心に残っている生徒が多い。題材決定という目的があったため、ジャンル分けという活動をいれたが、返って話し合いの際には足かせとなってしまう、感想や意見の深まりにつながりづらかった。授業を通し、様々なジャンルの作品に触れることで、それまでは考えなかった題材も候補に入れる生徒もいた。また題材の候補にはあがりながらも、実際の作文では違うものになっていた生徒もいた。題材決定とは別に、実際の作文を書かせる手立ても必要である。

5) 成果と課題

①素材探索について

【成果】

- ・題材が決める際に、ひざしを読んだり、感想を交流することは、事後アンケートや作品から大きな効果があることがわかる。
- ・仮に入った作品の題材が、自分の題材決定の参考に繋がっている生徒が多い。（アンケート）
- ・読ませる「ひざし」について、同じ学区や先輩、同級生、地域など教師が選抜することで、題材決定に広がりが出たり、高い関心をもって読むことができた。（アンケート）
- ・教師が明確な意図を持ち、読ませる作品をコーディネートすることは、「ひざし」活用の一例である。ただ読むだけでなくも交流やジャンル分けを入れることで、目的意識をもって読むことができる。今回の提案を含め、「ひざし」活用例はまだ大いに可能性があるし、現状ほとんど開発、共有されていないのが現状である。例えば、今回の遼山地区における過去の作品を読む中で扱った、「空港の開発が進む中で変化していく地域についての作品」は、自分たちが住んでいる地域の歴史について考えるには良い題材になるだろう。

【課題】

- ・作文を書くことが好きと答えた生徒はあまり変わらない。（アンケート）
- ・題材が決まっても、それに連続した書く技術の指導が必要。（アンケート）
- ・題材決定から作文作成、それを使った交流など、ひざし活用、作成のベースとなる指導案が必要。

②「ひざし」について

【成果】

- ・作品を読んだり書いたりすることで、改めて自分の生活を振り返り、その中から新しい価値や意識を持つことができる。
- ・特に知り合いや馴染みのある人の作品を読むことで、一般的な小説や文章より身近に感じることができる。また読んだり書いたりして感じたことを、交流することで、自分の意見を深めたり広げたりすることができる。
- ・過去のひざしには、地域や学校の歴史を感じられる作品も収録されている。かつての生徒にとっては当たり前でも、現代の生徒が読むと新鮮に感じられるものがあった。
- ・読む、交流、書く、という活動をする中で、一般的な作品に比べ「ひざし」を使うことは、生徒にとって身近で親しみ安さがある。それぞれの活動もそれによって充実した活動になっている。特にそれぞれの活動を通して「自分の生活を見つめ直し、新しい価値や意識を生み出す」という点は、「ひざし」ならではの貴重な価値であると考ええる。

【課題】

- ・授業時数が少ない中で年間指導計画に位置づけ、授業を実践することが難しい。
- ・ひざしを作成する目的「何のために書くのか」について、教師・生徒ともに曖昧なまま取り組んでいる場合がある。また教師が「ひざし」を作成させるにあたって明確なねらいや意識、具体的な書かせる指導力に差がある。
- ・作成の時期や実践体制が曖昧なまま（よく言えば伝統的に）、継続されている。学習指導要領が改訂される時期にあり、今後も「ひざし」の実践を継続するのであれば、現代に合った形でより良い実践にするための研修や体制の更新が必要であると感じる。今後、職員の世代交代が進む中で、これまで伝統的に続けられてきたとり組みから、研修や組織的な実践体制を整えるなかで、全ての国語科職員に共通意識・共通実践をさせていくことは考えなければならないのではないか。
- ・例えば、①ひざし作成のねらい、②題材決定から作文作成までの指導計画、③「ひざし」活用の実践例（「ひざし」を使ってこんなことができた）の共有、④表現力向上の平立て、⑤ひざし指導の達人による研修、⑥学習指導要領との関連づけなど、組織的に体制を整えていっても良いだろう。そうでなく、ただ伝統的に現在の活動を現状維持していくだけでは、その内容や取り組みは、年間指導計画や学習指導要領から得た扱いにくいものとなり、変化していく時代に取り残され、やがて先細りしてしまう可能性もある。先人達がここまで気づいてきた貴重な取り組みの結晶を、現代や次世代の教員が受け継ぎ、時代に合った体制を構築していくことが、「ひざし」100年に向けての新たな一歩となるのではないだろうか。

提案 2

資料1 光る言葉にマークをした例

- 108 -

となった。祖母の発した「おいしい」の言葉……。それは単なる「おいしい」以上の意味があるのだと思えた。あの「おいしい」は僕への、祖母の最後のメッセージなのだ。

——大ちゃんの気持ち、伝わったよ——

——大ちゃん、今までありがとう——

——大ちゃん、これでお別れだね——

祖母のいくつもの声が聞こえてくる。涙が後から後からあふれてきた。おばあちゃん、僕は今日の事を、この瞬間を、絶対に忘れないよ。天国から僕達家族を、ずっと見守ってね。

(指導 末延真弓先生)

「評」家族の愛情をいっばいに受け、最期を迎えることは幸せなことです。筆者に向けられた「おいしい」の一音に、心熱くさせられます。命について、家族について、改めて考えさせてくれる作品です。

私の友達

七次台 三年 大森 愛生

「今日はよく見えるな」

今日も私は星空を見て考える。そして笑みが零れる。

私の趣味は夜空を見ること。星の透きとおった青空も好きだがやはり黒いキャンバスにちりばめられた星を見ること

「ブラックホールはあるのか? ないのか?」

テレビを見ていてとても興味がわいた。もともと天体は好きで自分でも色々調べたりしていた。「ブラックホールって何?」そんな新しい疑問に、ついペランダに出て空を眺めた。「ブラックホールあるのかな?」見て分かることではないけれど新しい発見にうきうきした。

ある日の塾の帰り道、月が真つ赤でとても大きかった。私はその月に感動し遠端で見とれた。

「すっ……い……」

何も考えなくてもその言葉が口から出た。その日から私の生活に新たな日陰が生まれた。

皆が寝たころ、一人でペランダに出る。

「あ、今日は良く見える」

自分の気持ちは段々夜空から今日の出来事に移り変わる。

「あれはもうちょっと頑張れたな」

「最後まで留っておけば良かったな」

と小さい声で言ってみる。自分について考える時間がとても増えたと思う。自分なりに反省してみたり、次はこうしようと考えたり、私は夜空に話しかける。

前まではブルーライトという光を目に当てていたが、今は違う。宇宙のかなたにある何億年前のものか分からない光を体全体で浴びている。私の新しい友達に宇宙。少し馬

とが一番好きだ。夜空を見ると心が落ちつく。自分の気持ちに一番素直になれる時間だと思う。気がつくと毎日夜空を見るのが習慣になっていた。

以前はこんな趣味はなかった。家に帰るとご飯を食べて宿題をやって……。私の心を揺らすかのように話しかけてくる奴がいた。

「ビーローン」

あ、スマホが鳴った。誰からだろう。

「ビーローン」

あ、まただ、次は何だろう? 勉強の邪魔をしてくるスマホと私は大の仲良し。一回開くと止められない。

「あと三十分」

そう自分に言い聞かせてスマホと会話を始める。「あれ、なんだこれ……あと二分なんだけど……まあいいか」とどんどん私をインターネットの世界に引きずりこむ、いや、私が引きずりこまれてしまう。結局、予定時間大幅オーバーを毎日繰り返し、寝不足になる。するとささいな事でもストレスがたまり、イライラする。やり場のないこのイライラつきほど嫌なものはない。

「あーもう」

毎日毎日イライラしているそんな日々新しい友達と出会った。

應じているけれど自分を自分らしくしてくれる大切な話し相手。もちろん返事は返ってこないけれど、それがさらに自分の芯を強くしてくれる。

あともう一つ。これは照れくさくて誰にも言えないけれど、夜空は世界共通のもの。今この時間に別の国の人が見ているかも知れないと思って、「地球はつながっているんだな」と考えてみたり。また、小学生の時に外国に転校した友達とどうしてもつながっているといたい夜空を見ていた時期もあった。

今はスマホとの会話はなるべく少なめにと、心がけている。自分自身を見つめる時間、ちょっと余計な事を考えてみる時間、この新たな友達と話す時間が私は楽しくて仕方がない。今日の夜も明日の夜もこの先ずっと

「今日は良く見えるな」

私は言い続けるだろう

(指導 竹添真弓先生)

「評」冒頭の「笑みが零れる」は読めませんでしたが、調べて「こぼれ」ると知り、ついでに「零れ散る」という素敵な言葉にも出会えました。「ちょっと余計な事を考えてみる時間」の大切さを身近な出来事から気づく感性が新鮮です。



1年 観志
原山 小田島

表現に立ち上る

* ひざしから見つけた「気になる言葉」を分類してみよう。

一年組番(

;
-

見上
R113
下・8行

自分だけの辞書 (p113 下 12)

涙がふれた。(99/上42)

うわしいとか、悲しいとか、をうわすのうわと、うわたうわ

保育士になっても姉にはなれない (p92 上) (12)

私が家族と出会えたことは奇跡だ。(P. 17)

便命だと思いう。(P81 下)

しない、せぬといふところから私たちに課せられた

そこで感じた恐怖を受け断ち、同じことを二度と

ある。ミミにすれば、恐怖がある。美を知り

老若くは

意外と憎めないか？
P73 上 L2

そうたアホ毛。(P72 下)

よれ
1 = 0
(P6
上
L1)

十三年月の五月上旬種々島宇宙ヤタの

私の思いをのせた、一分三十秒（P59上L7）

私達の演奏 (P46 下 L8)

22

※与えた分類項目以外に項目を作った例②

頭の中の出来事

○頭の中が厚い、真黒な雲で覆われてしまい、抜け出せなくなりました。
雪は頭の中でぐるぐると渦巻き、おかげでその一日中、授業が手につかない。
た。(P90) 1-3行

※与えた分類項目以外に項目を作った例③

例え

P95下り(思わず息を飲む状態が来る。
P99上り(私は貴、飛べない鳥)

※行動・描写などを抜き出した例

行動
○重たい目をゆっくり開ける。 (P127) 2-3行

描写	
風景	人物
厚い雲が湧いて、まはりの太陽の光と雲が青い空を染め、 てくてく降るような、(P93) 11-12行 冷たいような、(P93) 11-12行 雪の迷いも、(P93) 11-12行 雪の迷いも、(P93) 11-12行	

描写	
風景	人物
やけに重く、冷たく響いた。 部屋より眩しい食卓の光 (P127) 1-2行 (P127) 1-2行	先生の目がギリりと光った。 (P127) 1-2行 (P127) 1-2行

③ 表現をいくつかのグループに分け、短い言葉で説明する方法

① 下 私は父が好き。優しくても私を思ってくれる父が好き。	② 下 私は父が好き。優しくても私を思ってくれる父が好き。
③ 上 合奏でたえた時も、カラスのようにはしゃぐていらした。	④ 上 合奏でたえた時も、カラスのようにはしゃぐていらした。
⑤ 下 底のなれ穴で強ひこまれたような気分だった。	⑥ 下 底のなれ穴で強ひこまれたような気分だった。
⑦ 上 この味わったことのない不思議な気分だ。私はリカーになるスライヤ黄。	⑧ 上 この味わったことのない不思議な気分だ。私はリカーになるスライヤ黄。
⑨ 下 不安、きん張。	⑩ 下 不安、きん張。
⑪ 下 目をゆくりあける。	⑫ 下 目をゆくりあける。
⑬ 下 自分のはきくはきくはきく。空まわりしてしまつ。	⑭ 下 自分のはきくはきくはきく。空まわりしてしまつ。
⑮ 上 私の部屋に對する姿勢はかりと変わった。	⑯ 上 私の部屋に對する姿勢はかりと変わった。
⑰ 下 パトンが手に吸ひこまれた。	⑱ 下 パトンが手に吸ひこまれた。

① 下 私は父が好き。優しくても私を思ってくれる父が好き。	② 下 私は父が好き。優しくても私を思ってくれる父が好き。
③ 上 合奏でたえた時も、カラスのようにはしゃぐていらした。	④ 上 合奏でたえた時も、カラスのようにはしゃぐていらした。
⑤ 下 底のなれ穴で強ひこまれたような気分だった。	⑥ 下 底のなれ穴で強ひこまれたような気分だった。
⑦ 上 この味わったことのない不思議な気分だ。私はリカーになるスライヤ黄。	⑧ 上 この味わったことのない不思議な気分だ。私はリカーになるスライヤ黄。
⑨ 下 不安、きん張。	⑩ 下 不安、きん張。
⑪ 下 目をゆくりあける。	⑫ 下 目をゆくりあける。
⑬ 下 自分のはきくはきくはきく。空まわりしてしまつ。	⑭ 下 自分のはきくはきくはきく。空まわりしてしまつ。
⑮ 上 私の部屋に對する姿勢はかりと変わった。	⑯ 上 私の部屋に對する姿勢はかりと変わった。
⑰ 下 パトンが手に吸ひこまれた。	⑱ 下 パトンが手に吸ひこまれた。

考察

グループの話し合いの記録に、いかに生徒が頭を悩ませたがにじみ出ている。この話し合いは、数学の計算のように、どこかに答えがありいつかはどこかにたどり着けることを約束されているわけではない。この作業は、意味のすり合わせを行うのである。したがって、構成メンバーが違えば、到着点が違うことはあり得る。

「話し合い」とは価値観の違う人間同士が意見交換をして合意形成を試みることだと考えられる。そう考えると、ゴールが決まっていなく、自分たちで着地点を見つけ出さなければならぬのはよい経験になったであろう。

例①は同じ感情表現を比較することで、「悲しみ」のような一語では表しきれない様々な感情があることを知った。

例②は表現を説明しようと頭を悩ませること自体が、表現力を鍛える話し合いになっている。

例③は授業の流れ通りにプリントの項目を使って分類している例である。表現の分析は不十分なところもあるが、誠実にグループ全員で話し合った結果である。

資料 4

表現辞典

一年A組表現辞典

表現したい事	光る言葉	ページ
表現したい事	光る言葉	ページ
晴れ舞台に立つときの気持ち	眩しく輝く白いライト	45
自分の中で強く決心した。	私の心の中で固まった。	46
緊張はしているが期待が胸に広がる	不思議とワクワクした。(擬態語)	46
いい演奏ができてうれしい。一生心に残るうれしさ	あの光を、あの温度を、あの空気を、あの音を、あの演奏を、私は、忘れない。(「を」が繰り返されている)	47
暗く落ち込んでいく気持ち	深く暗い青色は、まるで私の心を表しているかのようにだった。(心象風景)	49
気持ちが沈んでいて足どりが重い	とても果てしなく長く感じられた。(時間の感じ方で心情を表現できる。)	49
大切なことを思い出せた喜び	それが、青い鳥が思い出させてくれた、私の大切な目標だ。	50
怒り	雨は降らなそうだが、急に空がくもってきた。(心象風景)	51
うれしい	気がつくとき空はすっかり晴れ、雲はどこかへ行っていた。(心象風景)	52
頑張った後のさわやかな気持ち	夕方の風が肌を優しくなでてきた。	52
がんばった汗の美しさ	その一つぶ一粒が宝石のように輝いて見えた。	52
新しいことに気が付けた喜び	掃除というものが、こんなにも人を生き生きとさせてくれる魔法のようなものだというのに(問題提起)	52
引っかかっていたことが消えてすっきりした	厚い雲が消えて、まばゆい太陽の光と真っ青な青空が出てきた時のように消えていきました。	53

表現したい事	光る言葉	ページ
達成感、喜び	ピカピカになった窓や床、黒板もとても生き生きしているように見えました。(擬人化)	53
先輩への感謝の気持ちが大変である。	なにがあっても諦めない事も、努力しなければ何も変われないことも、全部全部教えてくれた、大切な、本当に大好きな、先輩への感謝の気持ちである。(反復で強調する。)	56
日々のおじさんとのやり取りで居心地がよい場所になっている。	私たちのバスは居心地が良く、笑顔であふれている。	56
楽しみ。ウキウキしている。	知らず知らず弾んでいる。	57
自分が前向きになった嬉しさ。	進めずにいた私の背中を押してくれた。もう後ろは向かない	59
やりたいことが見つかってウキウキしている。	私は目を輝かせた	59
予想外のことが起きて悲しい	心の底がすーと冷たくなるようなショック	64
怖くて悲しい	そこには教科書や写真ではわからない「空気」がある。	64
あの音が力強く励ましてくれた。	またあの音がよみがえり力強く鼓膜をゆさぶった。	65
自分のすべてを否定されたような気分	底のない穴に吸い込まれたような気分	64
驚き	電流が体を走ったようにドキドキした。(比喩)	75

表現したい事	光る言葉	ページ
ウキウキ	足どりは、知らず知らず弾んでいる。	57
緊張、ドキドキす	心臓が少しづつ暴れたす	55
責任感からの緊張	紙を持つ手が震えた。	57
気分が沈んでいる	足どりが重くなる	58
心が温まる。	私の中にふわりと広がって、つられるように私の頭もほころんだ。	58
だんだん緊張してくる	心臓の鼓動が大きくなる。	58
喜び、笑顔	『ありがと』『その言葉は、わたしの中にふわりと広がって、つられるように私の頭もほころんだ。』	58
ドキドキした気持ちで心がいっぱい。	心はもう破裂寸前だった。	58
これからも頑張ろうと思う気持ち	一歩ずつ前へ、歩いていきたい。	59
真夏日	燃えるような熱い地面と、からっと澄んだ青い空。	59
一つのこと意識を集中して頑張る	一心不乱	59
だんだん固結していき、強い固結力が生まれた	今までバラバラだったパズルがすこしずつ完成していく様に	60
迷いなく、すっきりとして踊ろうとしている	何の迷いもない青天。(心象風景)	61
流れのような悲しみとショック	心の底がすーっと冷たくなるようなショック	64
初めて出したトラペットの音が力強く励ましてくれた	力強く鼓膜を揺さぶった。	65

表現したい事	光る言葉	ページ
実力の差で一人ぼっちで練習している虚しさや寂しさ	教室という大きな穴に吸い込まれていくようだった。	65
マイナス思考からくる苦しみ	こんなに休みの日が少ない辛い練習ばかりでは強くなれるわけがない。	66
希望と迫力がある	このまさに武道という匂いのする修学館で二年半がはんんだ。	66
とてもうれしい。	良いことがふりそく	67
大きな悩み	頭の中が厚い真っ黒な雲で覆われてしまい	70
ひらめき	そうだ、アホ毛	72
緊張、驚き。	心臓がギョツとにぎりつぶされそう	73
どうしようもない悲しみ	涙でぐしゃぐしゃになったタオル	77
夢、喜びに満ちた。	笑う花になりたい	77
後悔からの決心	負けという名の怪物	79
戸惑い	妙に心に針が刺さっているような気分で	93
怒り	怪物が火を吹きながら怒鳴った。(比喻)	95
物音	ダダダダ！(擬音語、擬態語)	96
束縛	飛べない鳥。父のおりに閉じ込められた。もう逃げ出せる」となど不可能なのだ。	100
絶望	みんなの世界は虹色。私の世界はきつと何の色もない真っ白な世界	100

表現したい事	光る言葉	ページ
心が割れるような悲しみ	ガラスのようにガシャンと崩れ落ちていった。	100
急なことで頭に入らない	一瞬思考回路が止まった	110
喜びと感動	その上で見た景色は今までの中で一番輝いていた。	120
暖気。いやいやながら目を開ける。	重い目をゆっくり開ける	127
どしゃ降り	雨の日はすべてのものが泣いているように見えたりもする。	127
睡魔	まぶたに石が乗っているかのように眠くなる。	127
絶望的な悲しみ	心は潮のように涙を流しながら	131
不可能に近い困難	高い壁が目の前にあるように感じた。	130

表現辞典 一年C組

表現したい事	光る言葉	ページ
焦りで演奏が滑らかにいかない状態	なんだかギクシャクして(カタカナで表現することによりうまくいかないことが強調される。)	45
何かを放り投げたくなるような喜び	ヘルメットを放り投げて抱き合った。(喜びの動作を入れる)	47
強く、忘れたくない思い出	あの光を、あの温度を、あの空気を、あの音を、あの演奏を私は忘れない。(具体的に表現してイメージを強める。)	47
うまくできないで落ち込んでいる	深く暗い青色は、まるで私の心をあらわしているかのようにだった。	49
くらい沈んだ気持ちで絵について考えすぎて頭が真っ白になった。	いつもなら二十分もかからない家への道が、とても果てなく長く感じられた。(時間の長さで気分を表せる。)	49
新しいことを発見して幸福になった状況	掃除というものが、こんなにも人を生き生きとさせてくれるすばらしい魔法のようなものだというところに(問題提起)	52
爽快感、すがすがしい、さわやか	そして、同じにそのひっかかっていたことが厚い雲が消えて、まばゆい太陽の光と真っ青な青空が出てきた時のように、消えていきました。(比喩表現)	53
不安で動けない。	不安が私の体を支配していた。	54
きれいにすること、に快感と楽しさを覚え掃除の大切さを改めて学んだ。	いつしか掃除の魔法にかけられていました。	54
うれしいことやいいことがあった。	いつもと同じような普通の風も心地よく感じた。	54
動揺。	心が大きく揺れた。私の中で何かが動いた。(「た」の連続で強く動いたことを表現している。)	57

表現したい事	光る言葉	ページ
暑い夏に何かが始まる予感をさせる。	燃えるような熱い地面と、からっと澄んだ青い空。	59
先輩の怒りが強い	先輩の声。やけに重く、冷たく響いた。(句読点の使い方)	64
深い悲しみ、怖さ	私は底のない穴に吸い込まれたような気分だった。	64
心が傷つくような悲しみ	私はその瞬間の、心の底がすーっと冷たくなるようなショックが今でもわすれられない。	64
諦めないで頑張ろうと思う気持ち(決意)	誰かを音楽で幸せにするまで、諦めちゃいけない。	65
戸惑っている私を先輩が支えてくれる。感謝	嬉しさ戸惑いに立ち止まる私の手を先輩が引いていく。	65
感情の変化が激しく、何もかも嫌になる気持ち	悲しみが焦りに変わり、そして怒りに変わった。	68
ほっとして嬉しい気持ち	リレーは私にとって、自分という存在を認めてくれる、私の居場所だ	68
自分で自分を責めていて、自信がなくなつて不安を振りほどけない。	そんな恐怖が、鎖のようにからみついて、私を重くした。	68
深い喜び	心の奥底からほっとした。	68
極度の緊張	全身の血が冷たい。	69
うまくパトンが渡った	パトンが手に吸い込まれた。	69

考察

「表現辞典」と名前を付けておきながら、辞典と呼ぶには程遠い状態である。しかし、「読むこと」を「書くこと」に転換するにはこの作業が必要であると考えた。

実践してみても、表現されていることを説明しようとする過程で表現力が高まったのではないかと思う。「流れるような悲しみ」など比喩を比喩で言い換えているものもあるが、「すーっと」という擬態語をとらえて言い換えているのでよく表現を見つめて言葉を考えていると思う

表現したい事	光る言葉	ページ
心地よい	元気に友達にあいさつした	73
快適・解放感・喜び	今まで待ち続けてきた疑問がやっととけたという晴れやかな気持ちと、意味を知ることができた。	76
強い決意。	そしていつか決断で笑う花になりたい。	77
悩んでいる。痛み。	心に針が刺さっているような気分	93
愛情	父が好き。厳しくても私を思ってくれる父が好き。(繰り返しで強調)	100
限界。耐えきれない。	今まで耐えてきた心もガラスのようにガシャンと崩れ落ちていった。	100
まだ眠い	重たい目をゆっくり開ける	127
自分の気分が風景の見える方が変わる	雨の日はすべてのものがないているよう見えたりする。	127

※ 低学年（小1.2.3）と高学年（小4.5.6、中学）は字體と行數が違います

— 壹 萬 —

○1行目に題名、2行目に姓名(小・中は書かない)、3行目に学年(〇年)と氏名、4行目から本文を書く。
 作文の場合は段落ごとに空け出しをマスをあけるが、詩の場合は全てマスをうける。
 ○作品の題名行の次の行に、「指導○○〇〇先生」と記入する。
 ○、「1」「2」などは一字使用し、ただし「1」は組んで「1」とする。
 ○、作品ごとに右上に作品番号を記入する。

せりむら、に時は、全力でやうとしたが、休むいうことを聞かへん。に。自分「それ」と言ひましたに、なぜか休む止ま、しもう、なぜだうう？なぜだうう？たくさん考えた、その時の私は、「全力でやる」という身持ちが足りなかつた。Eのふもしれないと思つた。それなりば、皆段々学校生活でもそれを生かして、いこうとした。掃除でも、勉強でも、何事にも、

「ひさし」原稿用紙（小学校四・五・六年・中学校用）

校名	
部会番号	

陈永祥 王明

— 重版余姓 永野印刷 —

26x11

※ 低学年（小1.2.3）と高学年（小4.5.6.中学）は字跡と行数が違います

— 肆 六 —

○1行目に題名。2行目に校名(小・中は書かない)。3行目に学年(○年)と氏名。4行目から本文を書く。
作文の場合は段落ごとに書き出しをマースあけるが、詩の場合は全てマース目から書く。
○作品の最終行の次の行に、「指導○○○先生」と記入する。
○「。」「!」「」などは、半角使う。「だじ」「は」は全角で一文字とする。
○作品ごとに右上にO印のところをとじる。

しす。そして怒りをふりはらえるぐらい余力でやると、私はまず、気持ちを変えらるゝことにした。例へば、ア、アに怒えす。ボジテ、アに怒えらる。シュー上まはすしてしき、イも、そこで怒わらすに、何て入らなかつたの、どうう。今のほどふか思つたの、どうう。と、^金原因を考えてから、トト一本一本にこたはれ、打つた、そして、入部して最初の頃より、ますます入るようになつた。私の心の裏、黒い雲はから、からの青空のよりになつた。先輩にむねめられ、とても嬉しが、に、気持ちを變えらるゝ人はここに、まや、愛われらるゝと、だ、と、バ、かう感動した。

次に私は、^金何があつても全力でやることを決めた。種々試合に出さ

「ひざし」原稿用紙（小学校四・五・六年・中学校用）

校名	
開校年	

氏名ヨリ印鑑

5

— 寒 風 集 社 永 興 印 刷 —

考察

作文を書き終わつた後に推敲を行った。今回は交流を行わず、個人の校正とした。

原稿用紙の上に書いてあるのは、作文の柱を書き込むことで内容と量を管理することを目的としている。授業で作文を書くときは字数指定をすることが多いのだが、「字数が足りなくなる」という悩みも多かった。そこで、どこからどこまで泣きを書くのかという計画を原稿用紙に書き込んでおくことでバランスをとれた作文を書けるようにするためのものである。説明不足を補ったり、表現を入れ替えたりなど遂行がなされている。「人」と書くか「人間」と書くかなど、表現にこだわった推敲がなされている。

普段の授業の中で推敲までやつていくのは大変であるが、せめて読み直しぐらいはさせたものである。訂正の仕方も教えて統一することも大事である。全文書き直しはできるだけ避けて、見やすい下書きを作ること、生徒の作文への抵抗感も軽減できるのではないかと思う。